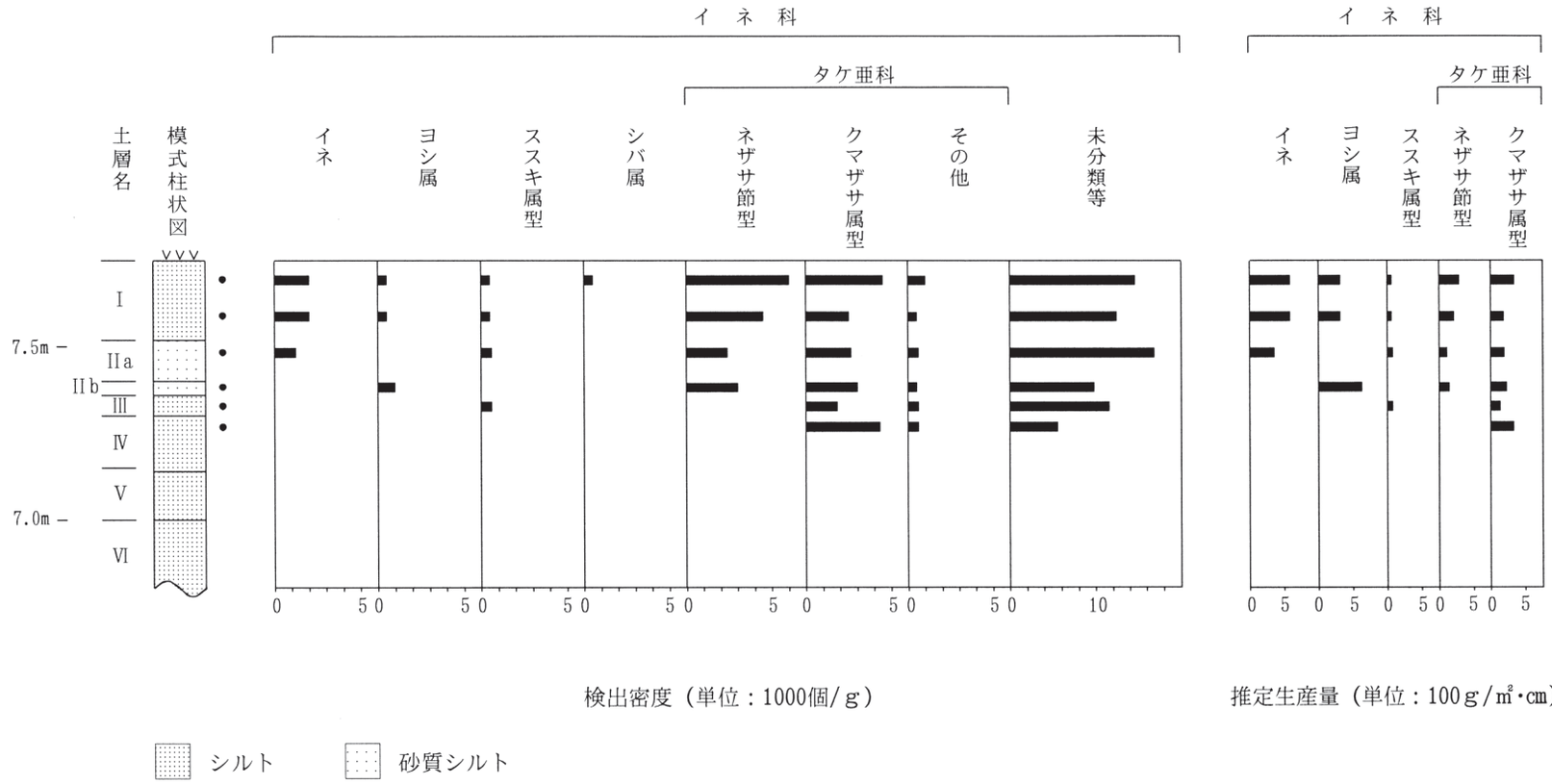
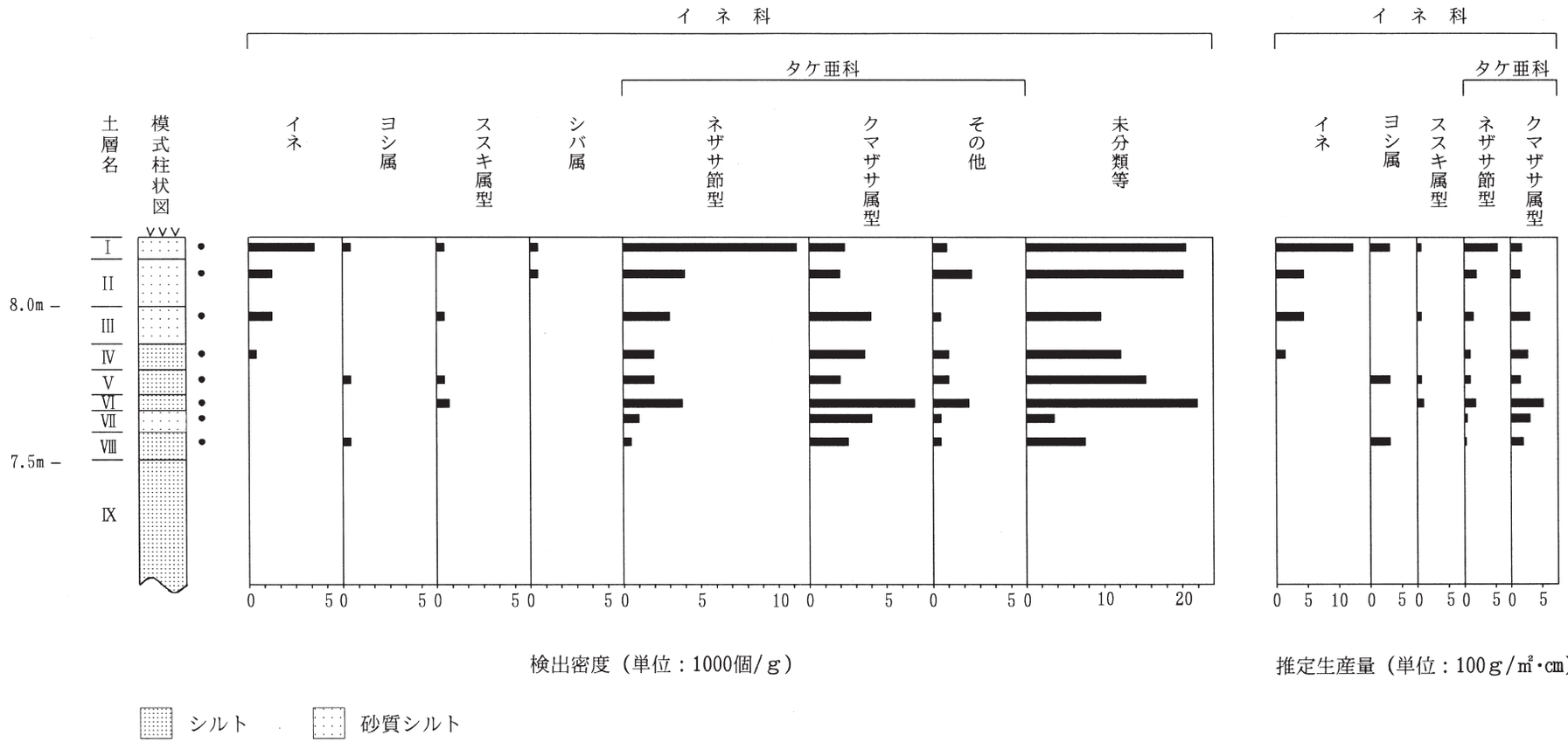
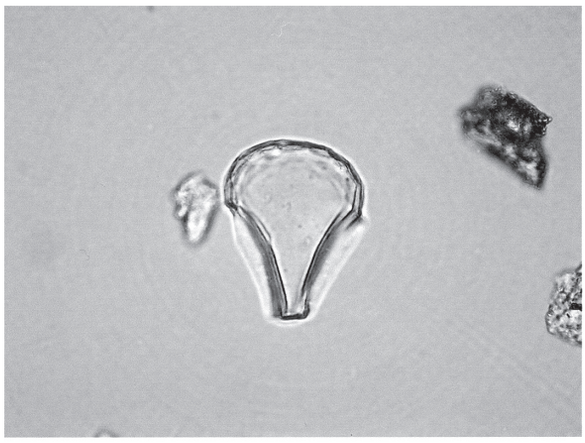


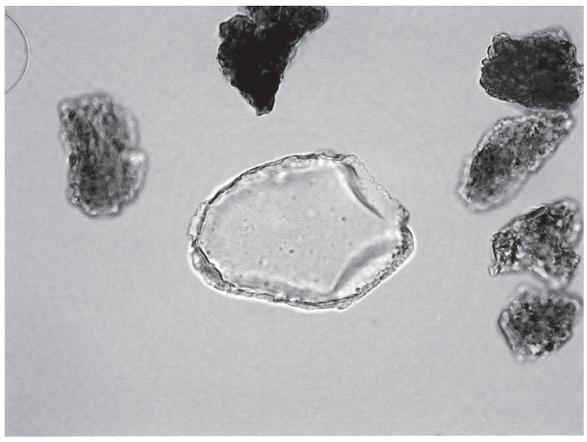
第339図　（図１）２区第３試掘区におけるプラント・オパール分析結果



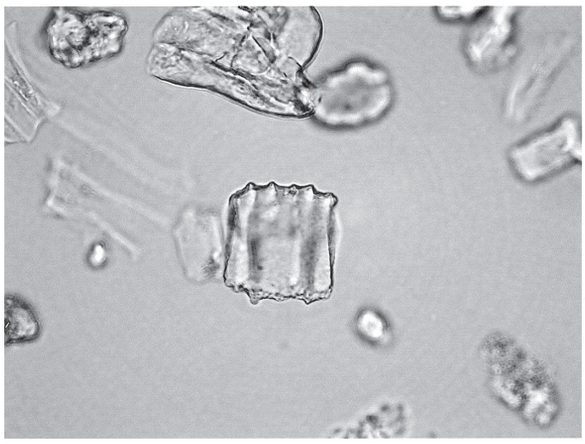
第340図　（図2）2区第8試掘区におけるプラント・オパール分析結果



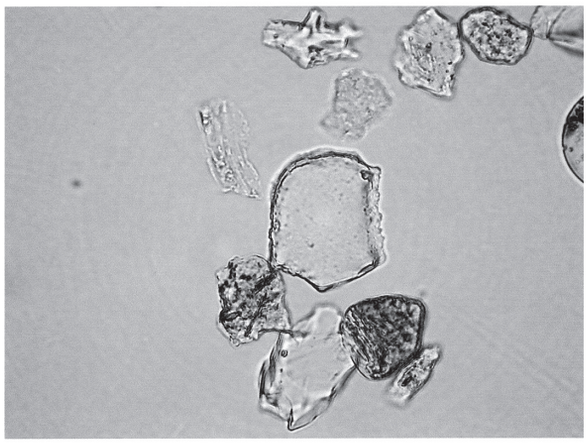
イネ



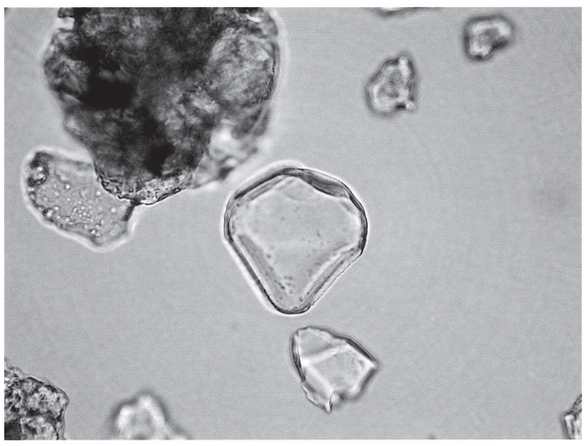
ヨシ属



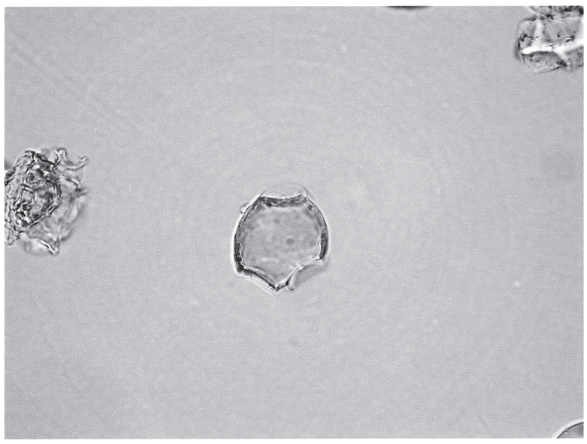
ネザサ節型



クマザサ属型



ススキ属型

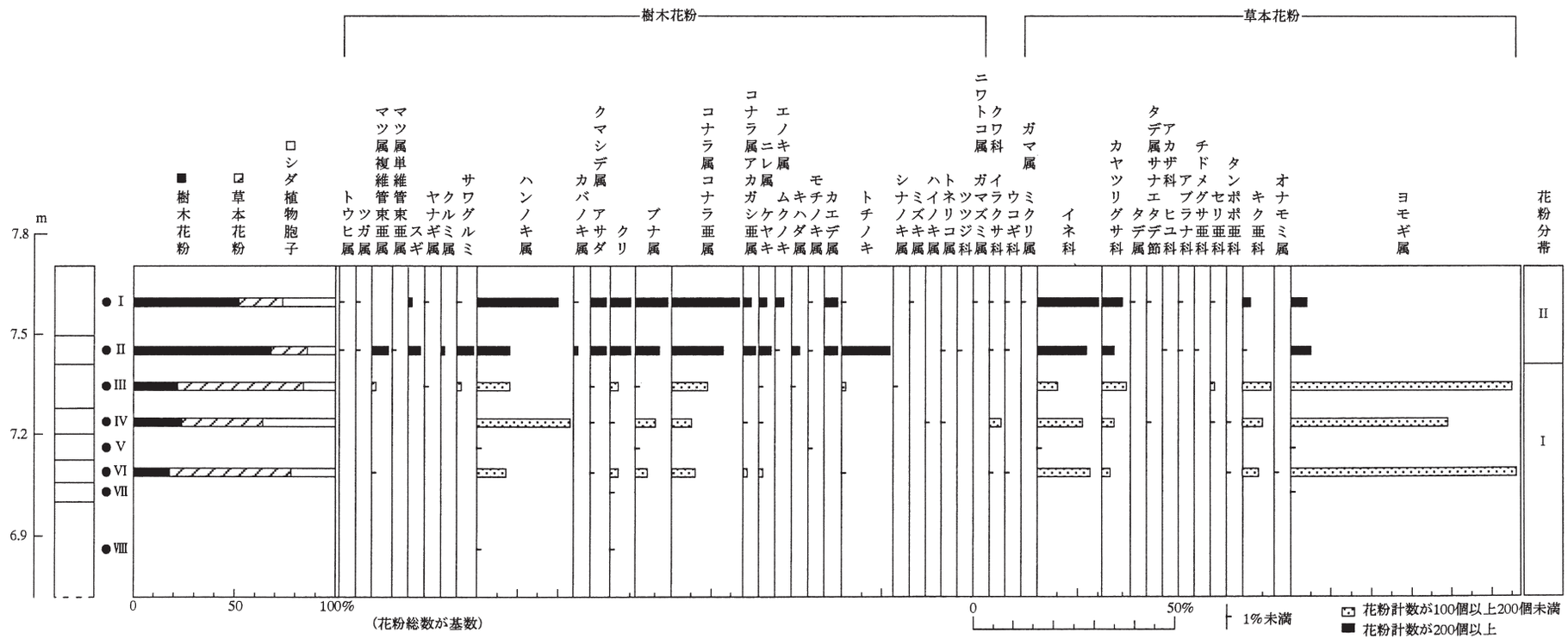


シバ属

プラント・オパールの顕微鏡写真　―――――― 50μm

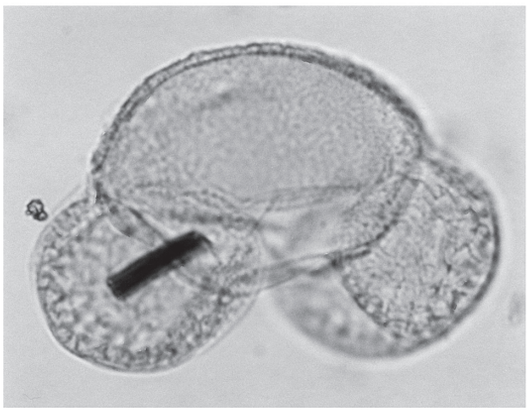
表２　長町駅東遺跡における花粉分析結果

分類群		２区第５試堀区北壁							
学名	和名	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
Arboreal pollen	樹木花粉								
Picea	トウヒ属	1	2						
Tsuga	ツガ属	1	2						
Pinus subgen. Diploxylon	マツ属複維管束亜属		13	2			1		
Pinus subgen. Haploxylon	マツ属単維管束亜属		2						
Cryptomeria japonica	スギ	3	11						
Salix	ヤナギ属	1		1					
Juglans	クルミ属		5						
Pterocarya rhoifolia	サワグルミ	2	14	2					
Alnus	ハンノキ属	44	28	14	26	3	11		1
Betula	カバノキ属	1	4						
Carpinus-Ostrya japonica	クマシデ属-アサダ	9	14	1	1		1		
Castanea crenata	クリ	11	17	4	1		3	3	1
Castanopsis	シイ属		2	1					
Fagus	ブナ属	19	22	1	5	1	4		
Quercus subgen. Lepidobalanus	コナラ属コナラ亜属	39	45	15	5		9		
Quercus subgen. Cyclobalanopsis	コナラ属アカガシ亜属	4	10		1		2		
Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属-ケヤキ	5	11	1	1		2		
Celtis-Aphananthe aspera	エノキ属-ムクノキ	5	1						
Phellodendron	キハダ属		16	1					
Ilex	モチノキ属	2	2			1			
Acer	カエデ属	6	9						
Aesculus turbinata	トチノキ	1	44	2			1		
Tilia	シナノキ属			1					
Cornus	ミズキ属	1							
Symplocos	ハイノキ属				1				
Fraxinus	トネリコ属		1		1				
Ericaceae	ツツジ科		1						
Sambucus-Viburnum	ニワトコ属-ガマズミ属	2							
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木　草本花粉								
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2	1		3		1		
Araliaceae	ウコギ科	1	2				1		
Nonarboreal pollen	草本花粉								
Typha-Sparganium	ガマ属-ミクリ属	1							
Gramineae	イネ科	34	44	9	12	2	20		
Cyperaceae	カヤツリグサ科	12	11	10	3		3		
Polygonum	タデ属	1							
Polygonum sect. Persicaria	タデ属サナエタデ節	2			1				
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科		1						
Cruciferae	アブラナ科	1	1						
Hydrocetyloideae	チドメグサ亜科		1						
Apiodeae	セリ亜科	1		2	1				
Lactucoideae	タンポポ亜科				1		1		
Asteroideae	キク亜科	4	1	13	5		6		
Xanthium	オナモミ属						1		
Artemisia	ヨモギ属	10	16	97	43	1	85	1	
Fern spore	シダ植物胞子								
Monolate type spore	単条溝胞子	58	46	26	50		36		1
Trilate type spore	三条溝胞子	25	13	12	11		6		
Arboreal pollen	樹木花粉	157	276	46	42	5	34	3	2
Arboreal　Nonarboreal pollen	樹木　草本花粉	3	3	0	3	0	2	0	0
Nonarboreal pollen	草本花粉	66	75	131	66	3	116	1	0
Total pollen	花粉総数	226	354	177	111	8	152	4	2
Unknown pollen	未同定花粉	13	16	6	7	1	6	0	0
Fern spore	シダ植物胞子	83	59	38	61	0	42	0	1
Helminth eggs	寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)



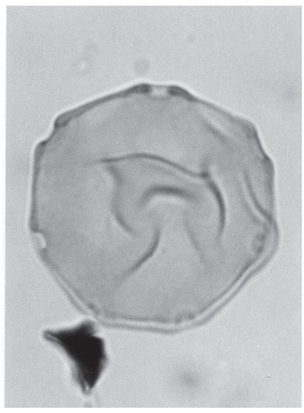
第341図　(図3)長町駅東遺跡、第2区5試掘区北壁における花粉ダイアグラム

長町駅東遺跡の花粉・胞子

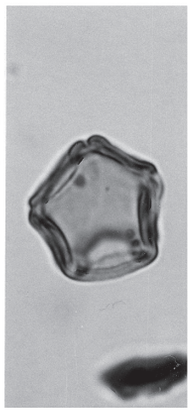


1　マツ属複維管束亜属

2　スギ



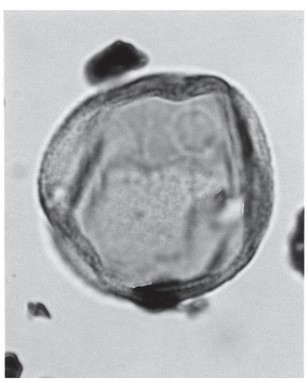
3　サワグルミ



4　ハンノキ属

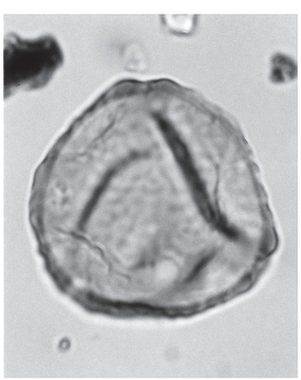
5　カバノキ属

6　シイ属



7　ブナ属

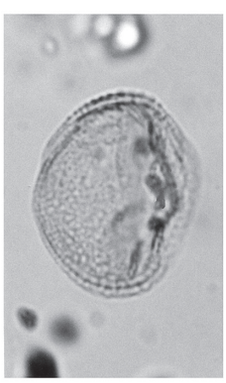
8　コナラ属コナラ亜属



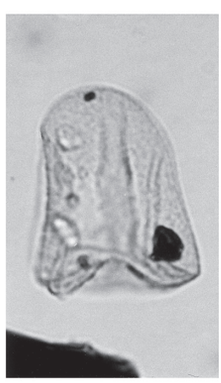
9　ニレ属ーケヤキ

10　トチノキ

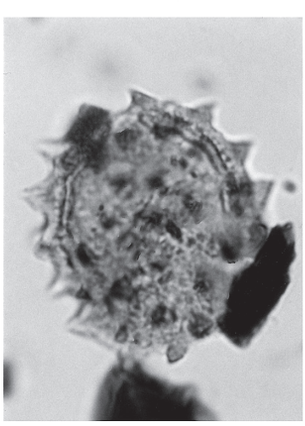
11　キハダ属



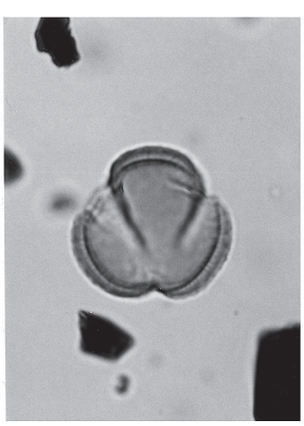
12　ウコギ科



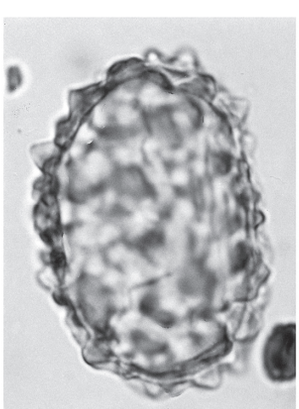
13　カヤツリグサ科



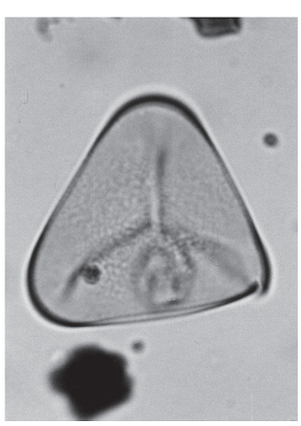
14　キク亜科



15　ヨモギ属



16　シダ植物単条溝胞子



17　シダ植物＿条溝胞子

10μm

Ⅱ．長町駅東遺跡２Ｂ区下層の花粉化石群

吉川 昌伸（古代の森研究舎）

１．はじめに

長町駅東遺跡は、JR長町駅の東側に位置し、地形的には沖積低地の西端付近にある。本遺跡からは縄文時代後･晩期や弥生時代中期の土器、および古代の竪穴住居が多数検出されている。縄文時代後･晩期の遺構は確認されていないが、周辺に居住域があった可能性も考えられている。そこで縄文後･晩期の周辺の環境復元および生業についての資料を得ることを目的に、花粉化石群の調査を行った。

２．試料

花粉化石群の調査は、２Ｂ区下層調査区の西壁の12層準において行った。分析地点の地質柱状図と試料採取層準は後述する図３に示す。現地観察を行っていないため、ここでは堆積物および堆積状況の詳細な記載を示さないことから、それらについては関係する章を参照されたい。

２Ｂ区下層は大きくは16層に区分され、各層は概ね水平に堆積する。堆積物は、最下部（16層）と最上部（１層）の砂層を除いては、主に灰色ないし褐灰色、暗青灰色粘土質シルトからなり、15、6、３各層で黒色粘土質シルトが層状に堆積する。６～８層からは縄文後期、３b層からは縄文晩期の遺物が出土している。

３．分析方法

花粉化石の抽出は、単位体積あたりの花粉量を算出するため体積を測定後、10% KOH（湯煎約15分）－傾斜法により粗粒砂を取り除く－48% HF（約30分）－重液分離（比重2.15の臭化亜鉛）－アセトリシス処理（濃硫酸１：無水酢酸９の混液で湯煎７分）の順に処理を行った。プレパラート作成は、残渣を適量に希釈しタッチミキサーで十分撹拌後、マイクロピペットで取りグリセリンで封入した。また、堆積物の性質を調べるために、花粉分析層準において有機物量と泥･砂分量について調査した。有機物量の変動については強熱減量を測定した。強熱減量は、るつぼと乾燥試料約２gの質量をはかり、るつぼを電気マッフル炉内に置き、750℃で３時間強熱し、強熱による減量を乾燥重量百分率で算出した。泥含有量はシルト以下の細粒成分で、この成分の割合を乾燥重量百分率で算出した（表１）。

４．花粉化石群の記載

２Ｂ区下層より産出した分類群のリストとその個数を表２に、主要花粉変遷図を図１に示す。出現率は、樹木は樹木花粉、草本･胞子は花粉胞子数を基数として百分率で算出した。図表中で複数の分類群をハイフンで結んだものは、分類群間の区別が明確でないものである。図版に示したAFR.MY番号は単体標本の番号を示し、これら標本は古代の森研究舎に保管してある。

分析試料の堆積物の特徴は、砂分の多い２b、15各層を除いては類似し、強熱減量は9.8～13.8%と全般に低く、泥質の無機物に富む堆積物であることがわかる。また、各試料には、第三紀植物群であるフウ属（*Liquidamber*）、ニッサ属（*Nyssa*）、メタセコイア属（*Metasequoia*）などの誘導化石が普通に産出し、さらに第四紀からの誘導化石とみられる化石も含まれている。しかしながら、全般に花粉の保存状態が悪いことから誘導化石を区別することが困難な試料も少なくない。図表には明らかに誘導化石と考えられる花粉は除いてあるが、一部試料には誘導化石が含まれている可能性も否定できない。

さて、産出傾向は、２層（２a,２b,２c）および４層で比較的多くの花粉が産出したが他の試料では少なく、特に

下位層準ほど少ない傾向にある。２a、２b、２cでは、落葉広葉樹のコナラ亜属が比較的高率に占め、クリ属を比較的多く伴う。他にハンノキ属が比較的高率に、ブナ、ニレ属－ケヤキ属、カエデ属、トチノキ属などを伴う。草本は低率で、ゼンマイ属やシダ植物胞子が多く産出する。４層も２層と概ね類似した組成からなり、ハンノキ属が高率に占め、コナラ亜属、クリ属、ブナなどが比較的高率に伴う。また、花粉の保存が悪いためクリ属近似種としたものも幾分多い。草本は低率でシダ植物胞子が多く占める。

表３、図２に１㎤あたりの樹木花粉量および微粒炭量を示す。樹木花粉量は上位層準で増加する傾向にある。2b層で少ないのは砂分が36％を占め堆積物が相対的に粗粒なためとみられる。微粒炭量、はデジタルカメラでプレパラートの顕微鏡画像を取り込み、画像解析ソフトのNIH Imageで面積を測定した。微粒炭は、６、３、２c各層で1434 ～ 2262㎟/㎤と多く含まれる。これら層準は概ね遺物包含層と一致し、周辺で生業があったことを示す。また、花粉処理後の残渣の植物遺体は、２b層を除いては微粒炭からなり、炭化していない植物遺体は稀である（表３）。つまり、堆積物の黒色は主に炭化物により形成されていると推定される。

５．長町駅東遺跡２Ｂ区下層の堆積環境および周辺の古植生

堆積物の特性に基づくと、14 ～２各層は概ね同様な環境で形成され、15、６、３各層の形成期には乾陸化していたとみられる。すなわち、分析試料の堆積物の特徴は、砂分の多い２b、15各層を除いては類似し、強熱減量は全般に低く、泥質の無機物に富む堆積物からなる。すべての層位の調査を行っているわけではないが、堆積物の特徴が類似するため14 ～２各層は同様な環境で形成されたと推定される。堆積物が有機物に乏しく泥質であることから、後背湿地などの比較的穏やかな環境で形成されたとみられる。また、植物遺体が炭化物を主とし、さらに樹木花粉量が下位に向け減少し花粉の保存が悪いことは、炭化していない植物遺体や花粉の一部が分解されたためとみられる。つまり、黒色を呈する15や６、３各層の層準では堆積後に乾陸化していたと推定される。

さて、２Ｂ区下層の縄文後期および晩期層の花粉化石群の調査を行ったが、縄文後期の植生を復元するための十分な資料は得られなかった。縄文晩期の３層からも十分な資料が得られていないが、２層と４層の花粉化石群が類似し、さらに３層の産出傾向も似ることから、２層の花粉化石群を縄文晩期の組成とみなして問題ないであろう。

縄文晩期頃の周辺の植生は、低地にはハンノキ湿地林が形成され、自然堤防や周辺の台地及び丘陵には、コナラ亜属を主としクリ属やニレ属－ケヤキ属、カエデ属、ウコギ科などの植物相からなる落葉広葉樹林が分布していたとみられる。本遺跡の西方約１㎞に位置する富沢遺跡でも2500 ～ 5000年前にコナラ亜属が優占する（仙台市史編さん委員会，1994）ことから、この付近の台地および丘陵には縄文時代後･晩期にはナラ類を主とする落葉広葉樹林が広がっていたと推定される。一方、クリ属は虫媒花で広域に散布しにくいが、２層では11 ～ 19％と比較的多く占めることから、周辺の自然堤防などの微高地にクリ林が形成されていた可能性はある。また、３層におびただしい微粒炭を含むことや、遺物を包含することからも集落等に隣接してクリ林を形成していた可能性は高い。但し、誘導化石が含まれることからも明らかなように、クリ花粉が上流域から搬入された異地性花粉でないとは断言できないため、周辺の古植生を復元するには時間、空間的な検討が必要である。クリ林は縄文前期末以降に青森県三内丸山遺跡（吉川･辻,1998）や関東平野（吉川,1999a）など各地で優勢で人為によりもたらされたと推定されている。奥松島の里浜貝塚でも縄文後期にはクリ林が形成されていた（吉川,1999b）ことから、自然堤防などの微高地にクリ林をつくり植物食を確保していた可能性は十分にある。

以上のように、14 ～２各層は概ね同様な環境で形成され、15、６、３各層の形成期には乾陸化していたとみられる。縄文晩期頃には、低地にはハンノキ湿地林が、周辺の自然堤防や台地及び丘陵にはナラ類を主とする落葉広葉樹林が形成されていた。また、自然堤防などの微高地にクリ林が形成されていた可能性はあるが、時間、空間的な検討が必要である。

引用文献

仙台市史編さん委員会．1994．仙台市史　特別編１　自然．520ｐ．，仙台市．

吉川昌伸・辻誠一郎．1998．三内丸山遺跡第６鉄塔スタンダード・コラムの花粉化石群．「三内丸山遺跡Ⅸ－第６鉄塔地区調査報告書２－（第２分冊）」（青森県教育庁文化課編），11-14．

吉川昌伸．1999a．関東平野における過去12,000年間の環境変遷．国立歴史民族博物館研究報告，第81集，267-287．

吉川昌伸．1999b．里浜貝塚西畑地点の縄文時代後期以降の花粉化石群．「鳴瀬町文化財調査報告書第５　集　里浜貝塚　平成10年度発掘調査概報」（鳴瀬町教委員会編），82-90，奥松島縄文村歴史資料館

表１　長町駅東遺跡２Ｂ区下層の堆積物の性質および固相構成

層位	堆積物の特徴	含水比	堆積物の性質（重量％）			堆積物の固相構成（体積％）		
			砂	泥	強熱減量（有機物量）	砂	泥	有機物
2a	灰オリーブ色シルト	45.1	5.2	85.0	9.8	4.4	76.2	19.4
2b	灰オリーブ色細～極細粒砂質シルト	28.6	40.8	51.5	7.7	35.7	48.3	16.0
2c	黒褐色シルトと灰オリーブ色シルトが混じる	43.3	1.2	87.5	11.3	1.0	77.0	22.0
3a	オリーブ黒色粘土質シルト	43.9	1.6	85.8	12.6	1.3	74.5	24.2
3b	オリーブ黒色粘土質シルト（縄文時代晩期）	40.3	1.2	86.2	12.6	1.0	74.8	24.2
3c	オリーブ黒色粘土質シルト	48.2	2.3	85.2	12.5	1.9	74.1	24.0
4	オリーブ灰色粘土質シルト	43.8	2.4	87.1	10.5	2.0	77.4	20.6
6	オリーブ黒色粘土質シルト（縄文時代後期）	53.8	1.6	84.6	13.8	1.2	72.6	26.1
7	オリーブ黒色粘土質シルト（縄文時代後期）	52.6	6.5	81.7	11.8	5.3	71.8	22.9
8	オリーブ黒色粘土質シルト（縄文時代後期）	50.0	5.8	82.8	11.4	4.8	73.0	22.2
14	灰オリーブ色粘土質シルト	46.8	8.0	82.1	9.9	6.7	73.7	19.6
15	オリーブ黒色中～細粒砂質シルト	35.8	32.9	57.8	9.3	28.2	53.0	18.8

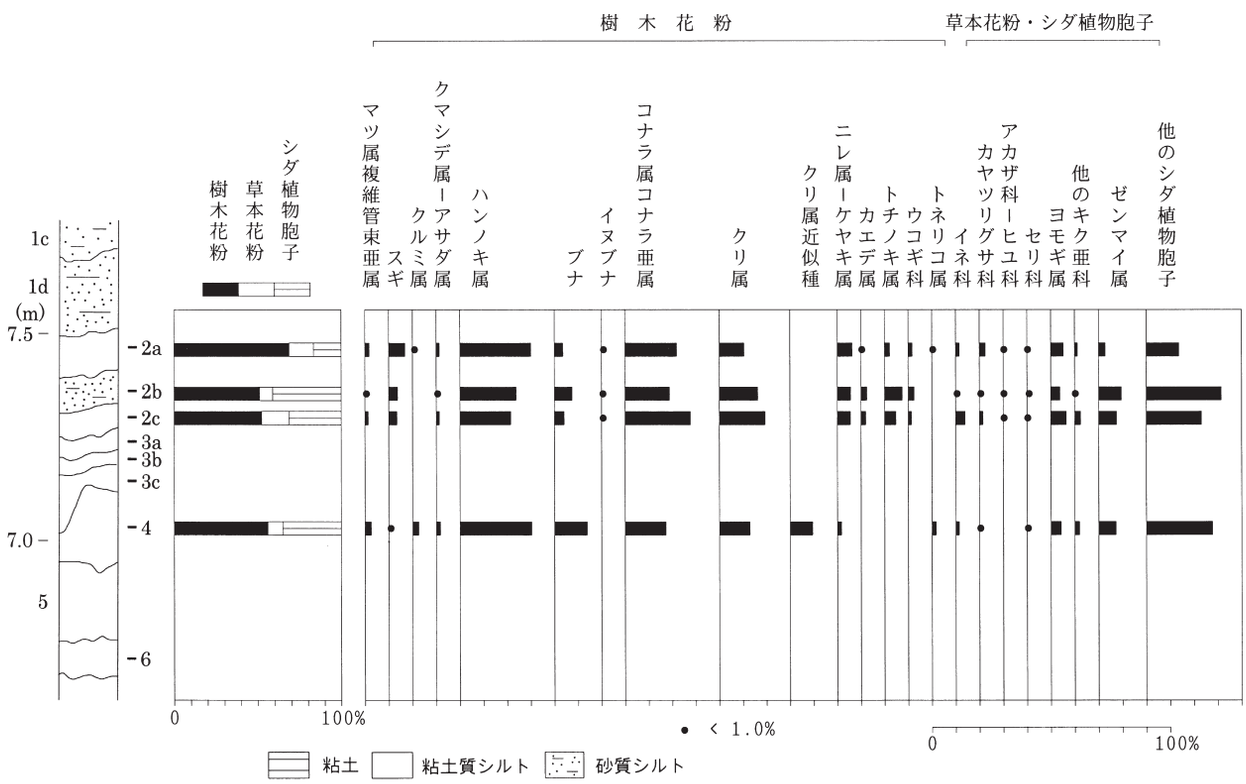
表２　長町駅東遺跡２Ｂ区下層より産出した花粉化石の組成表

和　　名	学　　名	2a	2b	2c	3a	3b	3c	4	6	7	8	14	15
樹木													
モミ属	*Abies*	2					1						
ツガ属	*Tsuga*	1	2	1				1					
トウヒ属	*Picea*	2	2	3		1							
マツ属単維管束亜属	*Pinus* subgen. *Haploxylon*	3	1										
マツ属複維管束亜属	*Pinus* subgen. *Diploxylon*	4	1	2		1		3					
マツ属（不明）	*Pinus* (Unknown)	2											
コウヤマキ属	*Sciadopitys*	3	2	1				2					
スギ	*Cryptomeria japonica* (L.fil.)D.Don	15	6	5				1	1				
イチイ科ーヒノキ科ーイヌガヤ科	Taxaceae - Cupressaceae - Cephalotaxaceae	1											
ヤナギ属	*Salix*	2											
クルミ属	*Juglans*	2						3				2	
クマシデ属ーアサダ属	*Carpinus - Ostrya*	3	1	2		2		2	1				
ハシバミ属	*Corylus*								1				
カバノキ属	*Betula*	1	1	1	2	4				2			
ハンノキ属	*Alnus*	66	38	31	9	16	8	35		11	4	9	2
ブナ	*Fagus crenata* Blume	8	12	6	2	3	4	16	1	1		2	1
イヌブナ	*Fagus japonica* Maxim.	2	1	1	1								
コナラ属コナラ亜属	*Quercus subgen. Lepidobalanus*	48	30	40	11	17	14	20	2	3		1	
コナラ属アカガシ亜属	*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*	1	1		1								
クリ属	*Castanea*	23	26	28	3	13	7	15		2	1		
クリ属近似種	cf. *Castanea*					2		11	3	3	1	1	2
シイノキ属	*Castanopsis*	1											
ニレ属ーケヤキ属	*Ulmus - Zelkova*	14	9	8		2		2					
ウルシ属	*Rhus*			1		1							
モチノキ属	*Ilex*	1	5		1	1	1	1					
カエデ属	*Acer*	1	4	3	1	2	2				1		
トチノキ属	*Aesculus*	5	12	7		3	2						
ブドウ属	*Vitis*	1											
グミ属	*Elaeagnus*	2											
ウコギ科	Araliaceae	4	4	2		1							
ミズキ属	*Cornus*			1									
ツツジ科	Ericaceae			1			1						
トネリコ属	*Fraxinus*	1				1		2		1			
ニワトコ属	*Sambucus*		1										
ガマズミ属	*Viburnum*							1					
草本													
イネ科	Gramineae	5	2	11	1	5	1	3				1	
カヤツリグサ科	Cyperaceae	8	2	4		2		1					
ギボウシ属	*Hosta*	1											
クワ科	Moraceae			1									
タデ属サナエタデ節ーウナギツカミ節	*Polygonum* sect. Persicaria - Echinocaulon	1	2									1	
アカザ科ーヒユ科	Chenopodiaceae - Amaranthaceae	1	1	1									
カラマツソウ属	*Thalictrum*	2		1		1						1	
他のキンポウゲ科	other Ranunculaceae	3	1				1						
セリ科	Umbelliferae	1	3	1		3	2	1					
ヘクソカズラ属	*Paederia*	3											
ヨモギ属	*Artemisia*	17	12	18	26	31	7	9	8	2	1		1
他のキク亜科	Tubuliflorae	4	1	7	3	7		4	1	2			
タンポポ亜科	Liguliflorae			1	1								
シダ植物													
ヒカゲノカズラ属	*Lycopodium*			1		1			2				
ゼンマイ属	*Osmunda*	9	30	21	2	17	5	15	1	2	1	1	1
単条型胞子	Monolete spore	36	72	41	13	53	9	51	5	19	20	12	5
三条型胞子	Trilete spore	8	26	23	1	9	3	5	2	2	2	1	
コケ類													
ミズゴケ属	*Sphagnum*	2			1							1	
樹木花粉総数	Total arboreal pollen	219	159	144	31	70	40	115	9	23	7	15	5
草本花粉総数	Total nonarboreal pollen	46	24	45	31	49	11	18	9	4	1	3	1
シダ植物胞子総数	Total fern spores	53	128	86	16	80	17	71	10	23	23	14	6
花粉・胞子総数	Total pollen and spores	318	311	275	78	199	68	204	28	50	31	32	12
不明花粉	Unknown pollen	6	13	16	3	13	1	14	3	1	2	1	1

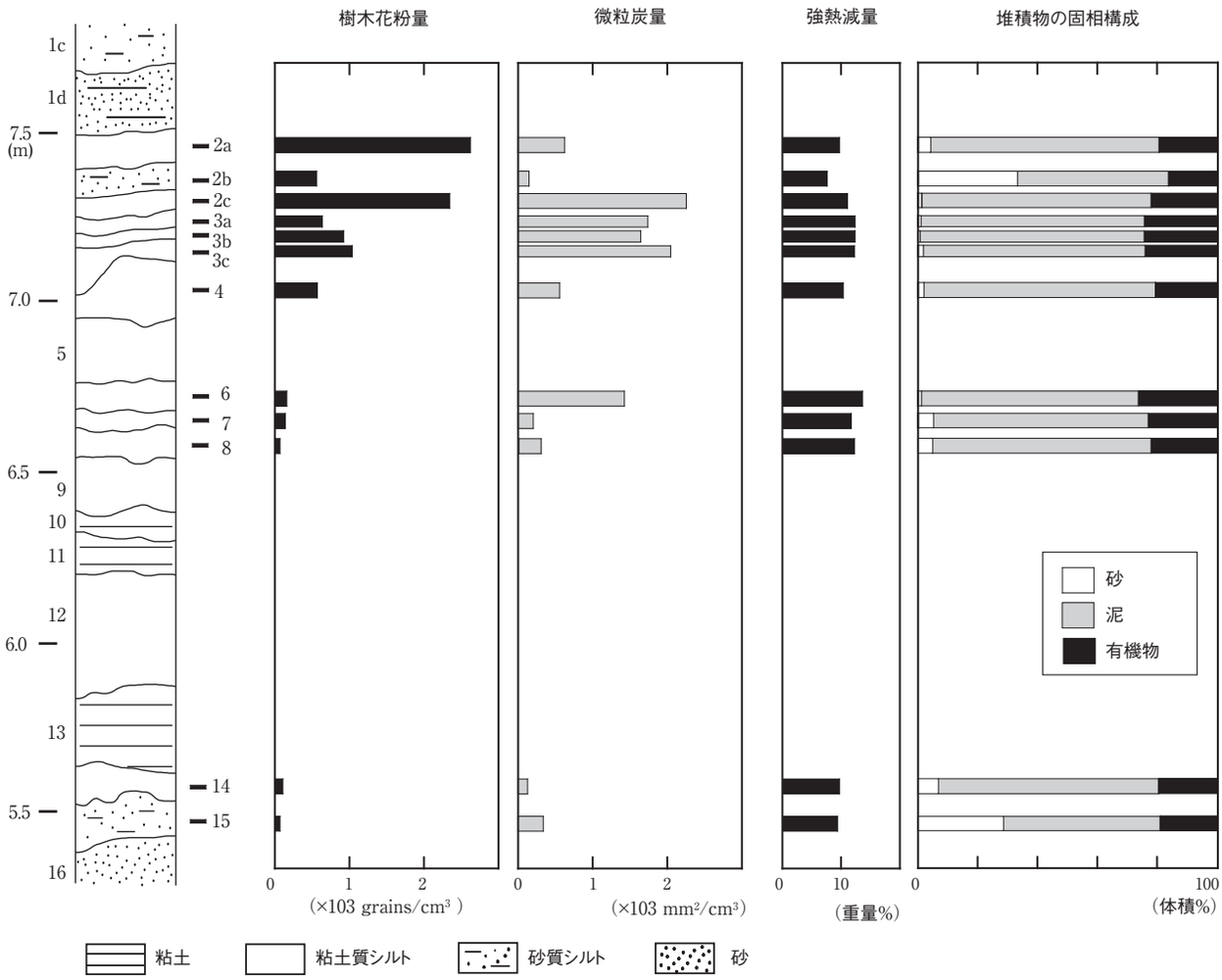
表３ 2B 区下層における樹木花粉量及び微粒炭量

層位	樹木花粉量 (grains/cm³)	微粒炭量 (mm²/cm³)	微粒炭量比率 (%)
2a	2636	614	99
2b	575	161	90
2c	2358	2262	99
3a	628	1756	99
3b	911	1667	100
3c	1037	2078	100
4	574	580	99
6	166	1434	100
7	126	208	99
8	70	302	100
14	100	126	100
15	53	330	100

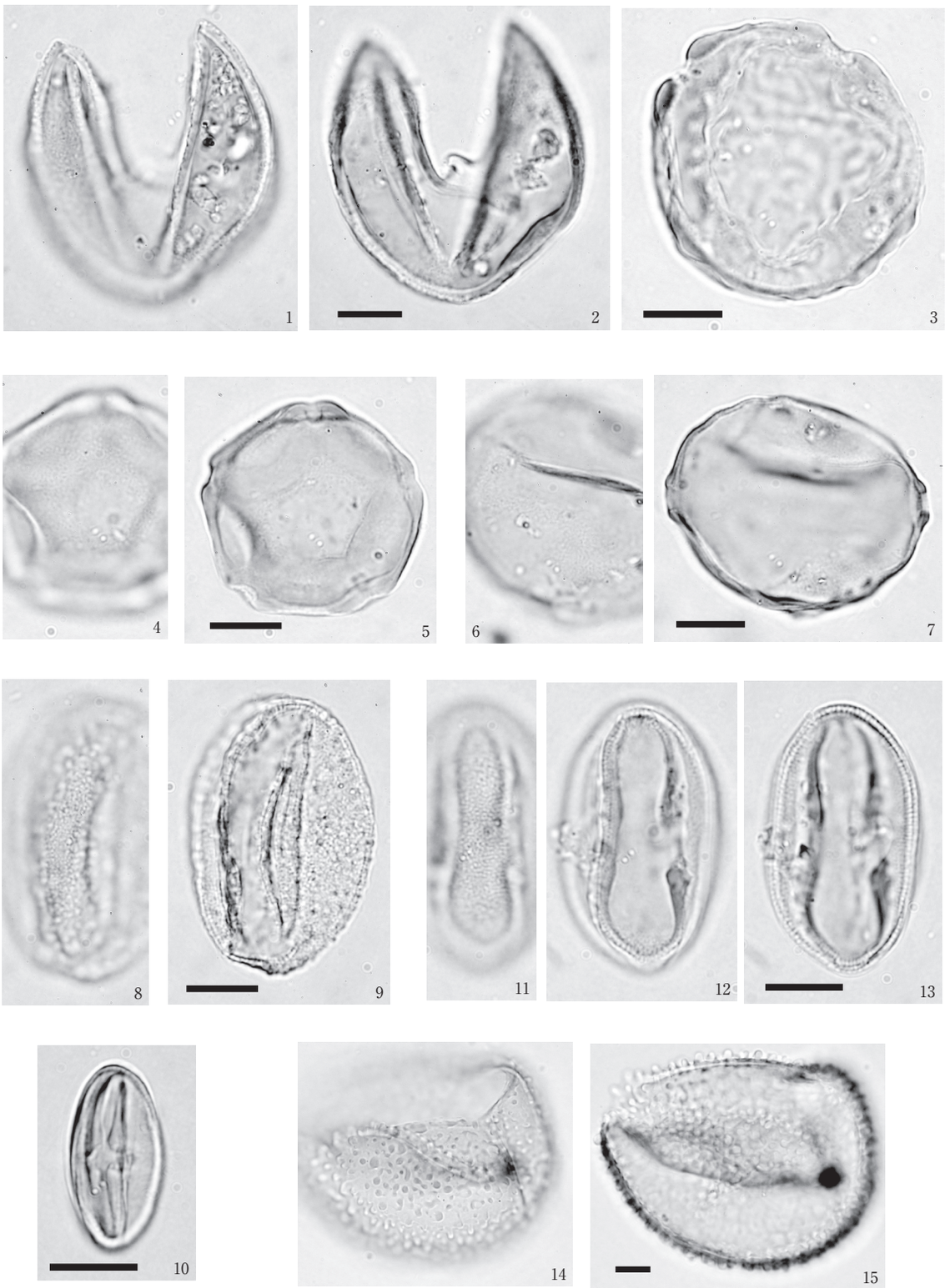
注）微粒炭量比率は植物遺体に占める微粒炭の割合を示す。



第342図　（図１）長町駅東遺跡２Ｂ区下層の主要花粉分布図
（出現率は、樹木は樹木花粉数、草本・胞子は花粉胞子数を基数として百分率で算出した）



第343図　（図２）長町駅東遺跡２Ｂ区下層における樹木花粉量、微粒炭量及び堆積物の特性



1-2：スギ(*Cryptomeria japonica*), 2a, AFR.MY 1451.　3:ケヤキ属(*Zelkova*), 4, AFR.MY 1449.
4-5:ハンノキ属(*Alnus*), 2b, AFR.MY 1446.　6-7:クマシデ属-アサダ属(*Carpinus - Ostrya*), 2a, AFR.MY 1450.　8-9:コナラ亜属(*Quercus* subgen. *Lepidobalanus*), 4, AFR.MY 1448.
10:クリ属(*Castanea*), 2a, AFR.MY 1444.　11-13:トチノキ属(*Aesculus*), 2b, AFR.MY 1445.
14-15:ゼンマイ属(*Osmunda*), 2b, AFR.MY 1447.

（スケールは10 μm）

第344図　（図版１）長町駅東遺跡２Ｂ区より産出した花粉化石

第８章　まとめ

あすと長町土地区画整理事業に伴う発掘調査は、平成10年から開始され、これまで西台畑遺跡(平成10年～13年･17年)、郡山遺跡(平成13年･16～18年)、長町駅東遺跡(平成13年～18年度)の調査が行なわれている。

西台畑遺跡の調査では、総数140軒の竪穴住居跡のうちに、その配置や構造に一定の規格を持つブロックが確認されている他、郡山遺跡方四町Ⅱ期官衙外郭大溝の更に外側に配置された外溝跡の西辺などが確認されている。

郡山遺跡の調査では、平成13年度の調査において、Ⅰ期官衙に関連すると考えられるＬ字形に延びる溝跡が確認されている。この溝跡はⅠ期官衙西辺の推定ラインから西50ｍに位置し、南北方向に延びる部分では、平行している。Ⅰ期官衙に関連する施設か、官衙周辺の区画のための溝と考えられる。さらに平成16年度の調査では外溝跡の北西コーナーが確認され、同年の国庫補助事業による郡山遺跡第166次調査で発見された東辺とともに、これまで南辺と西辺で発見されていた外溝が官衙の全域を囲んでいることが明らかになった。これにより官衙は材木列とその外周をめぐる大溝により区画され、さらにその外側にも外溝をめぐらせた区画構造を持つことが明らかになってきた。

長町駅東遺跡の調査では、総数約270軒の竪穴住居跡が調査され、平成19年度に報告を行なった長町遺跡第４次調査の報告では、集落の区画施設と考えられる区画溝跡と通路状遺構、材木列などが報告されている。今回の１区･２Ａ区･２Ｂ区及び３Ａ区の報告では、官衙の機能した時期の区画施設はないが、官衙造営以前に集落の一部を区画していたと考えられる溝の存在が、確認されている。

今回の報告後、最終報告となる３Ｂ区の報告時に遺構･遺物の総体をつぶさに踏査し、長町駅東遺跡の調査の全容を明らかにしていきたいと考えている。

１．調査成果の基礎整理

ａ．遺構確認面

４区における遺構の確認状況と同様、当該地区は地表面付近が近世以降に大きく撹乱されており、各遺構は上部が失われている状態にあった。このため、確認面をⅣ層の上面に設定し、遺構の検出を行なったが、これらが掘り込まれた層位については、明確にはできなかった。ここでは、調査区壁面で把握された土層断面を基にして、検出された遺構全体の傾向を検討したい。

Ⅰ層は近代以降における客土と考えられ、３Ａ区北部の並行して走る溝状の撹乱中に落ち込むⅡ層についても、近世またはそれ以降の耕作土にあたるものと推定される。

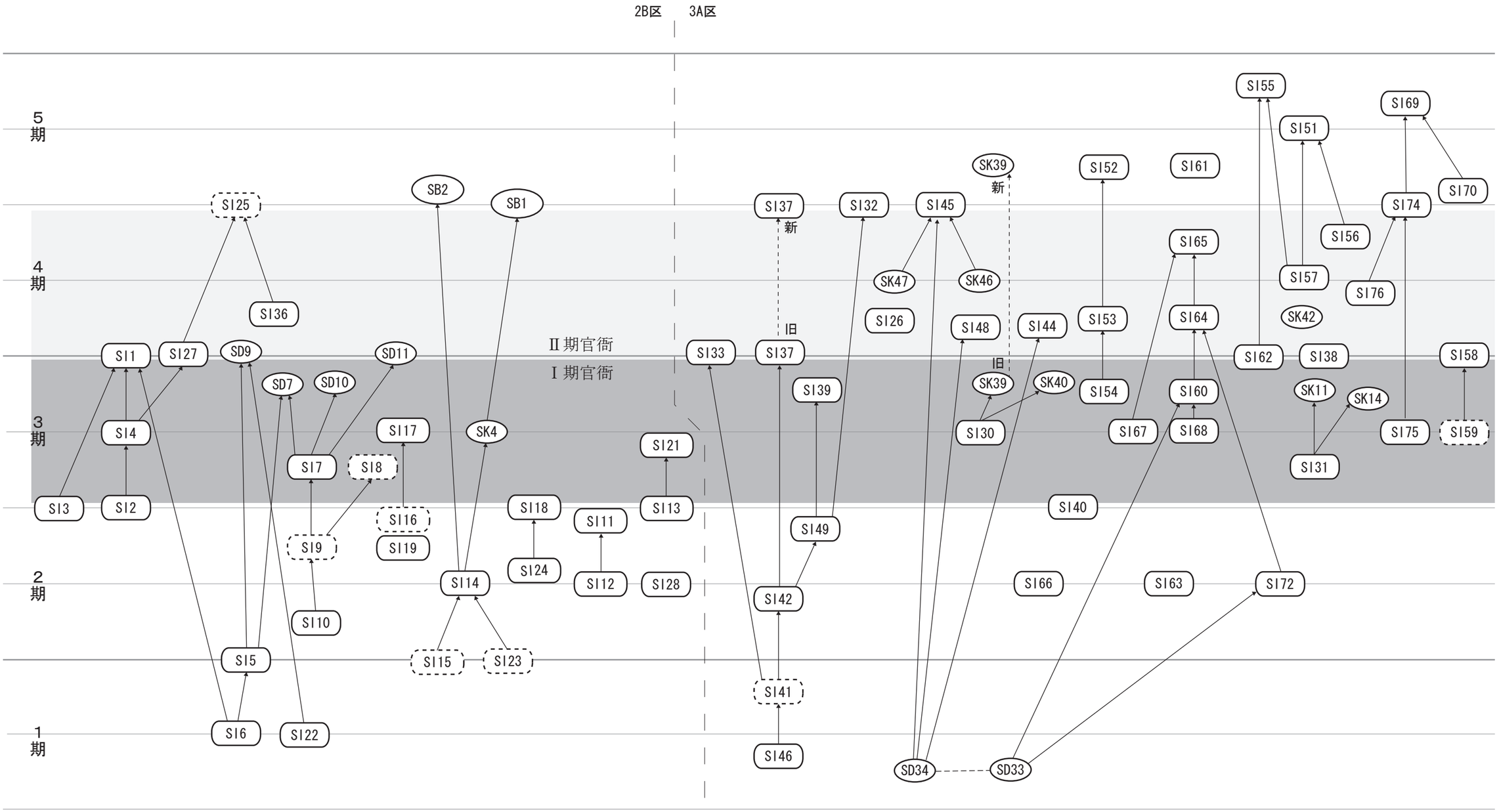
検出された遺構中で、最も上位の位置から掘り込まれていると推定されるのは、一部のピット群であり、平面的な分布の上でも、竪穴住居跡をはじめとする他の遺構の埋土を切っている。個々の性格は不明だが、少なくともⅢ層上面から掘り込まれているものが認められる。同じく、Ⅲ層上面から掘り込まれている遺構としては、２Ｂ区の溝跡SD８･SD９が挙げられる。３Ａ区のSK20は、Ⅲ層中からの掘り込みである。

竪穴住居跡は、Ⅳ層上面での確認となった。堆積土をⅢ層下面で削平されているもの（SI25･SI27･SI53･SI63）と、堆積土にⅢ層がわずかに落ち込むもの（SI4･SI31･SI32･SI52）に２分される。ただし、遺構の性質上、人為的な埋め戻しなどを考慮すれば、必ずしも時期差に結びつくものではない。

竪穴住居跡の床面下から検出された溝跡SD33･SD34は、Ⅳ層中に掘り込まれているものと考えられる。

ｂ．遺構重複状況

竪穴住居跡の重複関係だけでも、最大で５段階にわたる遺構の変遷を把握することが出来た。本章２節にて詳細



第345図　遺構重複関係図

を述べるが、出土遺物との関連から各遺構の時期幅と切りあい関係をまとめたものが、第345図である。

これを基にして、長町駅東遺跡の集落変遷に以下の５時期を設定した。

長町駅東遺跡１期

６世紀後半～７世紀前半に位置づけられる５軒の竪穴住居跡と溝跡SD33･SD34が確認できた。竪穴住居跡はいずれも一辺が６～７ｍの大型のものである。

長町駅東遺跡２期

７世紀前半～中葉に位置付けられ、出土遺物から帰属時期を特定できた竪穴住居跡は、２Ｂ区で７軒、３Ａ区が３軒であった。重複関係から、この時期に帰属すると考えられる遺構も２Ｂ区に集中している。竪穴の規模は一辺が５ｍを下回る中型～小型のものが中心となる。

長町駅東遺跡３期

７世紀後半代、郡山遺跡Ⅰ期官衙の時期に相当する。時期を特定できた竪穴住居跡だけでも19軒、SD7･SD10などの溝跡、SK39をはじめとする土坑なども存在し、一つの中心的な時期となる。竪穴の規模は中型のものが中心となり、一辺が６ｍを超す例は確認されていない。遺構分布の中心は３Ａ区に移る。

長町駅東遺跡４期

７世紀末～８世紀代前半、郡山遺跡Ⅱ期官衙の時期に相当する。時期を特定できた18軒の竪穴住居跡の他、SB１など、一部の掘立柱建物跡もこの時期に帰属する。直前の３期と共に、当遺跡の中心的な時期となっている。遺構は３Ａ区を中心に分布しており、竪穴の規模もⅢ期同様中型のものが主体となる。

長町駅東遺跡５期

８世紀後半、郡山遺跡における官衙の終焉期以後、長町駅東遺跡の集落も急激に縮小しており、３Ａ区の一部に７軒の住居跡が確認できるのみである。

ｃ．竪穴住居跡の整理

２Ｂ区･３Ａ区において確認された竪穴住居跡77軒について、住居構造に関る要素を整理し、一覧表とした。各項目の記載方法については、第4次調査報告書（仙台市教育委員会 2007）を踏襲するものとするが、今回、「方向」については、６章にて述べた主軸方位を記載した。

以下、各項目毎に認められた傾向について概観したい。

［規模･形態］

前段の時期区分に従って住居規模の変遷を見ると、特に竪穴の規模に関して２つの画期を見出すことが出来る。まず、一辺が６ｍを超える竪穴が中心となる１期から３ｍ～５ｍ前後の竪穴が中心となる２期、次いで、官衙の造営の以前、以後にあたる２期から３期以後にかけてである。３期以後の竪穴住居跡は、一辺がほぼ４ｍ～６ｍの範囲に収まり、分布域も調査区内北側に移動し、３Ａ区が中心となる。

平面形状については、短辺:長辺の比率が1:1.15を超える例を「長方形」として表中に記載したが、この長方形の住居は、２期～４期にかけて散見され、SI47など、その他の多くの竪穴住居とは異なる上屋構造が想定できるも

のも存在する。

［方向］

今回の調査区における住居の主軸方位は、真北方向を基準として、東西180°の範囲に収まっており、例外はカマドがわずかに南東を向くSI65のみであった。また、検出された半数近くの竪穴住居跡がN-17°～45°-Wに主軸方位をとっている。この方位を向く竪穴住居跡は、集落の全ての段階を通して、ある程度の割合で認められ、何らかの地形的、気候的な制約をうけているものとも考えられる。

これら、集落の主体となる北西方向を軸とする住居跡に対し、北東方向、N-18°～35°-Wを向く住居跡が、３期から４期初頭にかけて特徴的に存在している。時期的な特性から、郡山遺跡Ⅰ期官衙の軸方位であるN-30°-Eを意識していたものと推定できようか。

真北に対して、軸の傾きが５°以下となる住居跡は、郡山遺跡Ⅱ期官衙の時期となる４期に増加する傾向にあり、３期以降ではN-90°-E、すなわちカマドが真東を向く住居跡も出現する。

各時期を通して住居跡の軸方位は、上述の通り一定の規則性を有するものの、同時に複数の種類が混在する形となる。

［カマド］

住居の方向としても述べた通り、カマドは多くの場合住居の北壁または北西の壁に設けられていた。住居内の位置関係を想定した場合、住居の中心軸上に位置するものと、相対的に中心軸の左側に寄るもの（カマドが北壁にある場合、東壁寄り）に大別できる。左側に寄る例は、カマドが東側を向く住居跡に多く、４期以降わずかに増加する。

構造については、例外（SI75）を除き、検出された全ての住居跡で、竪穴内部にカマド本体を構築し、壁外へ煙道が延びる形となるものであった。袖部の平面形状は、壁に直行するもの、内湾するもの、外反するものの３種に大別可能であり、特に袖が内湾する形状を有するカマドは、４期以降に増加する傾向を指摘できる。

煙道は全体に１ｍ以上となる場合が多く、２期の後半ないし３期以降は先端部に煙出しのピットを有するものも見られる。

住居の構造と同様に、一つの時期に複数種のカマドの構造が共存していた可能性が高く、各要素間および出土遺物、住居構造との相関関係の精査が今後の課題となる。

２．各期の遺構出土土器について

ここでは、当遺跡と時期の重なる仙台市周辺の主な遺跡出土の土器群と比較しつつ、長町駅東遺跡出土土器（１～３Ａ区）の編年的位置について想定を述べ、各期の土器を概観する。

なお、本遺跡出土土器の器種分類、機能分類を含む精緻な編年観および本遺跡の性格については、長町駅東遺跡の検出遺構・出土土器の資料がすべて出揃う３Ｂ区の報告時に提起したい。

本遺跡の検出遺構は、切り合いと出土土器を基準に各期を１期から５期に区分した。特に本遺跡と対比できる遺跡として参照した郡山遺跡・栗遺跡の各出土土器は、郡山遺跡が栗囲式期～国分寺下層式期前半までの時期幅を持ち、栗遺跡が住社式期後半～栗囲式期、一方、長町駅東遺跡出土土器（１～３Ａ区）は、住社式期後半～国分寺下層式期中頃～後半までの時期幅を持つと考えられる。本遺跡各期の実年代の中心及び本遺跡出土土器と対比した郡山遺跡・栗遺跡の出土土器などの編年観の基礎となっている住社式期、栗囲式期、国分寺下層式期との比定時期は、長町駅東遺跡（１～３Ａ区）の１期が6世紀後半～７世紀前半、同２期が7世紀前半～中葉：栗囲式期前半・郡山遺跡プレⅠ期に相当、同３期が7世紀後半代中心：栗囲式期中頃～後半・郡山官衙Ⅰ期に相当、同４期が8世紀前半代中心：国分寺下層式期前半・郡山Ⅱ期官衙に相当、同５期が8世紀後半代中心：郡山Ⅱ期官衙終焉以後の国分寺下層式期中頃～後半に相当すると考えられる。

竪穴住居一覧表

住居番号	調査区	方　位	規模	平面形	カマド新古	カマド位置	燃焼部位置	袖部形状	煙道部底面	煙道部先端	煙道部途中	時期	
SI1	2B	N-15° -E	中型	方形	-	中央	内側	外反	下	○	-	7c-8c	4期
SI2		N-18° -E	中型	方形	-	中央	内側	-	-	-	-	7c 2·3	3期
SI3		N-38° -W	小型	-	-	中央	内側	外反	-	-	-	7c 2·3	3期
SI4		N-26° -W	大型	方形	-	-	-	-	-	-	-	7c 3·4	3期
SI5		N-18° -E	大型	方形	-	中央	内側	外反	-	-	-	6c 3·4	1期
SI6		N-4° -W	大型	方形	-	中央	-	-	-	-	-	6c 1·2	1期
SI7		N-18° -W	中型	-	-	-	-	-	-	-	-	7c 3·4	3期
SI8		N-18° -W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7c 2·3	3期
SI9		N-40° -W	大型	方形	-	-	-	-	-	-	-	7c 2	2期
SI10		N-34° -W	大型	-	-	-	-	-	-	-	-	7c 1·2	2期
SI11		N-36° -W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7c 2	2期
SI12		N-48° -W	中型	長方形	-	中央	内側	外反	下	-	-	7c 1·2	2期
SI13		N-30° -E	小型	方形	新	-	-	-	水平	-	-	7c 2·3	3期
SI13旧		-	-	-	旧	-	-	-	-	-	-	-	
SI14		N-45° -W	中型	方形	-	中央	内側	内湾	-	-	-	7c 1·2	2期
SI15		N-41° -W	大型	-	-	-	-	-	-	○	-	-	
SI16		N-20° -W	小型	方形	-	東より	-	-	-	-	-	7c 2	2期
SI17		N-30° -W	中型	方形	新	西より	-	-	水平	○	-	7c 3·4	3期
SI17旧		-	-	-	旧	東より	-	-	水平	-	-	-	
SI18		N-43° -W	中型	-	-	中央	内側	内湾	-	-	-	7c 2·3	3期
SI19		N-9° -W	小型	-	-	-	-	-	-	-	-	7c 2	2期
SI20		N-20° -W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SI21		N-12° -W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SI22		N-20° -W	大型	方形	-	-	-	-	-	-	-	6c 3·4	1期
SI23		N-36° -W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SI24		N-2° -W	大型	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SI25	3A	N-28° -W	中型	-	-	-	-	-	-	-	-	8c 2·3	5期
SI26		N-9° -W	中型	-	-	中央	内側	内湾	水平	-	-	7c-8c	4期
SI27		N-28° -E	大型	-	-	-	-	-	-	-	-	7c-8c	4期
SI28		N-43° -E	中型	方形	-	中央	内側	直行	-	-	-	-	
SI29		N-77° -W	中型	-	-	中央	内側	直行	下	○	-	-	
SI30		N-18° -E	大型	-	-	-	内側	-	-	-	-	7c 3·4	3期
SI31		N-90° -E	中型	-	-	南より	内側	直行	水平	-	-	7c 3·4	3期
SI32		N-0° -W	大型	-	-	中央	内側	外反	下	○	-	7c 3·4	3期
SI33		N-18° -E	大型	方形	新	-	-	-	下	-	-	7c-8c	4期
SI33旧		-	-	-	旧	中央	-	-	下	-	-	-	
SI34		N-8° -E	中型	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SI35		N-33° -W	-	-	-	-	-	-	上	-	-	-	
SI36		N-42° -E	小型	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SI37		N-18° -E	大型	方形	-	中央	内側	直行	水平	○	○	7c-8c	4期
SI38		N-39° -W	小型	方形	-	北より	内側	外反	水平	-	-	7c-8c	4期
SI39		N-43° -E	中型	-	-	-	-	-	-	-	-	7c-8c	4期
SI40		N-44° -W	中型	長方形	-	中央	内側	直行	上	○	-	7c 2·3	3期
SI41		N-33° -E	大型	長方形	-	西より	内側	直行	下	-	-	7c 2·3	3期
SI42		N-30° -W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6c 4	1期
SI43		N-2° -W	小型	方形	-	中央	内側	内湾	下	-	-	7c-8c	4期
SI44		N-0° -	中型	方形	新	中央	内側	外反	下	-	-	7c 3·4	3期
SI44旧		-	-	-	旧	東より	-	-	下	○	-	-	
SI45		N-11° -W	大型	方形	新	中央	内側	内湾	下	○	-	8c 2·3	5期
SI45旧		-	-	-	旧	東より	-	-	下	○	-	-	
SI46		N-43° -W	大型	方形	-	中央	内側	外反	水平	-	-	6c 3·4	1期
SI47		N-0° -	中型	長方形	-	-	-	-	下	○	-	8c 1	4期
SI48		N-20° -W	中型	方形	-	東側	内側	内湾	-	-	-	8c 1·2	4期
SI49		N-35° -E	大型	-	-	-	-	-	-	-	-	7c 3·4	3期
SI50		N-40° -E	小型	-	-	-	-	-	-	-	-	7c 2	2期
SI51		N-7° -W	大型	方形	-	中央	内側	外反	下	-	-	8c 3·4	5期
SI52		N-77° -E	小型	-	-	南より	内側	内湾	上	○	-	8c 2	4期
SI53		N-5° -E	中型	-	-	-	-	-	-	-	-	8c 1·2	4期
SI54		N-25° -W	小型	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SI55		N-90° -E	中型	方形	-	南より	内側	内湾	下	○	-	8c 4	5期
SI56		N-46° -W	中型	方形	-	中央	内側	外反	水平	-	-	8c 2	4期
SI57		N-32° -W	中型	方形	-	中央	内側	直行	-	-	-	8c 1·2	4期
SI58		N-62° -W	中型	方形	-	中央	内側	直行	下	○	-	7c-8c	4期
SI59		N-17° -W	小型	-	-	中央	内側	直行	水平	-	-	-	
SI60		N-30° -W	中型	方形	-	中央	内側	直行	水平	-	-	7c 4	3期
SI61		N-8° -W	大型	-	-	中央	内側	直行	下	-	-	8c 2·3	5期
SI62		N-35° -W	中型	長方形	-	東より	内側	内湾	水平	-	-	7c-8c	4期
SI63		N-78° -W	大型	方形	-	南より	内側	直行	水平	○	-	7c 4	3期
SI64		N-18° -W	大型	方形	-	東より	内側	直行	-	-	-	7c-8c	4期
SI65		N-100° -E	小型	方形	-	中央	内側	内湾	下	-	-	8c 2	4期
SI66		N-19° -W	小型	方形	-	-	-	-	-	-	-	7c 1·2	2期
SI67		N-64° -E	小型	方形	-	中央	内側	直行	水平	-	-	-	
SI68		N-41° -W	中型	-	-	中央	内側	-	水平	○	-	7c 3·4	3期
SI69		N-4° -W	中型	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SI70		N-29° -W	小型	-	-	中央	-	-	-	-	-	8c 4	5期
SI71		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SI72		N-48° -W	-	-	-	中央	内側	直行	下	○	-	7c 1·2	2期
SI73		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SI74		N-5° -W	小型	方形	-	-	-	-	下	-	-	8c 2·3	5期
SI75		N-18° -W	小型	-	-	中央	外側	-	-	-	-	7c 3·4	3期
SI76		N-27° -W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SI77		N-80° -W	中型	方形	-	-	-	-	-	-	-	-	

第345図および第346図～第355図は１～３Ａ区の竪穴住居を中心とする遺構切り合い関係図と出土土器の各期別の土器群の掲載図である。以下に各期の出土遺物を器種別に述べ、併せて時期設定の概要を記す。

⑴　長町駅東遺跡１期

新旧関係と出土土器から１期に属すると考えられる遺構は、SI５・６・22・46・SD33・SD34である。本期の遺構群から出土した土師器の坏は、６点を掲載した。SI６の１、SI５の１・２ 、SI46の１などは法量や器形から陶邑の２型式の須恵器を写した鬼高系土師器の坏で、広義には関東系土師器と呼称されているものである。SI６の１・SI５の２は須恵器坏身、SI５の１・SI46の１は丸底から緩やかに内湾しつつ直立気味の口唇部にいたる器形で、口縁部が短い須恵器坏蓋を写したものと考えられる。これらの土師器の坏は千葉県房総地域では６世紀後半代に盛行する。SI46出土の坏２は、丸底の底部から逆「ハ」の字状に強く外傾する比較的に長い口縁部を持つ。住社式期の後半に集中して多く見られる器形である。SI22出土の埦１は、底部外面ハケメ調整が施され、器形も見込みが深く丸底の底部から内湾しつつ立ち上がり、直立気味の口唇部に至る。南小泉式期から残る器形の系譜である。高坏は、SI5の４が長脚で外面赤彩、坏部内面黒色処理、SD33の１は、裾部に段を有する。いずれも７世紀代以前の特徴を持つ。SI22の２・３などの小型の壺も南小泉式以降残る古墳中期の器形の系譜である。３は、特に丁寧なヘラミガキ調整が施され、いわゆる坩の系譜に連なる。甕はSI６の球胴でやや頸部の直立する３なども古墳後期初頭によく見られる器形であろう。SI22の４、SD33の２なども球胴の形状を呈する。SD33の４は、甕としたが、甑の可能性もある。長胴で直立気味の胴部上半から逆「ハ」の字状に外傾する長い口縁部を持つ。SI46の５・SD33の３も長胴の甕である。SI５の３は、口縁部が短く外反する鉢状の甕である。甑は、SI46の７のように砲弾形で単孔のものが、見られる。１期は以上の土器組成で構成される。鬼高系土師器の坏が盛行し、在地の丸底の土師器坏と共伴すること、甕は、長胴・球胴・鉢状の３種が競合することなどが本期の特徴であろう。

⑵　長町駅東遺跡２期

新旧関係と出土土器から２期に属すると考えられる遺構は、SI２・10・12・13・18・19・28・40・66・72である。本期の土師器坏は、10点を掲載した。SI12の１・４は、関東系土師器と呼称されるものである。小型で丸底から内湾しつつ立ち上がり、両者とも短い口縁を有し、１は、わずかに内傾する口唇部に、４は、直立気味の口唇部にいたる。千葉県房総地域では、７世紀前半代から中頃にかけて盛行する器形である。SI19の1も関東系土師器で、郡山遺跡のプレⅠ期の住居（SI260の３）から出土したものに類似する。SI２の２、SI18の１は、底部と体部の境目で段を有し、口縁部が逆「ハ」の字状に外傾する器形である。前代の同器形のものにくらべると口縁部が短い。これらと同種の土師器は、栗遺跡などで多く出土している。SI12の２は、１に比べ新しく、７世紀中頃に出現する器形であり、丸底の底部から外傾し口唇部にいたる。SI18の２、SI40の１は、丸底の底部からゆるやかに内湾し口唇部にいたる。SI18の２は、平底状の底部から内湾し、直立気味の口唇部にいたる。以上の３点は、いずれも関東系土師器と呼称されているものである。SI10の１、SI12の３、SI２の１は、埦である。SI10の１・SI12の３は、やや大降りの埦で古墳中期以降残る器種である。SI２の１は、小型の埦で、須恵器の坏蓋を写したものか、須恵器の法量が最小になるこの期になって出現する器形であろう。SI18の３の高坏は、前代のものに比べ、短脚となる。甕は、SI12の６・７の長胴甕、SI13の１・SI72の２・４・５の胴部中央の張った甕などが、栗遺跡のⅡ期～Ⅲa期に比定されるものである。SI２の４・SI18の４・SI72の６などの小型の甕、SI40の３の粗製の鉢、甑は、SI66の２の鉢形単孔のもの・SI66の３の多孔のもの・SI40の４の単孔でゆるやかに外傾する胴部からやや開き気味に口唇部にいたるものなどが出土している。また天井部外面に３条の沈線を施す須恵器の蓋としたSI28の１なども本期に属するものである。２期は以上の土器組成で構成される。器種も器形も前代にくらべ、格段に豊富になること、坏・埦・甕・

甑など器種別に法量分化がすすむことが本期の特徴といえる。

⑶　長町駅東遺跡３期（郡山遺跡Ⅰ期官衙）

新旧関係と出土土器から３期に属すると考えられる遺構は、SI４・７・14・17・30・31・39・49・60・63・68・75である。本期から構築された竪穴住居の数は倍増し、それに比例して出土土器の数も急激に増えてくる。

本期の土師器の坏・埦類は、36点を掲載した。SI４の１、SI14の３、SI31の１、SI49の４、SI75の１、SI63の２などは、丸底の底部から緩やかに内湾し口唇部にいたる器形である。比較的に見込みが浅く皿状を呈すものもある。法量分化がすすみ大・中・小に細分類できる器形である。栗囲式期の後半に多く見られる。SI7の１、SI14の１、SI17の２、SI49の１、SI63の３、SI68の１は、底部と体部の境目で段を有し、口縁部が逆「ハ」の字状に外傾する器形である。前期から引き続き残る器形であり、本期で最も多くなる。体部中央と体部下端に段を持つもの、口唇部に向かってゆるく外傾するもの、きつく外傾するものなど同種器形のなかで多様化し、大・中・小があり法量分化も進んでおり、さらなる細分に耐える。なお、SI49の３などは本期より二段階古い器形であり、１期に属する。SI17の１、SI49の２は、丸底の底部から直立する口唇部にいたる。関東系土師器と呼称されているもので、本期以前に盛行する器形である。SI30の１は体部下端に段を有する皿状の器形であり、口縁部は、直立からわずかに内湾しつつ口唇部にいたる。本期から出現する器形である。SI14の２、SI63の１は丸底状の底部から外反する口縁部を有す。この器形も本期から出現する。SI39の１は小型の埦で前期から引き続き残る器形である。SI49の５・６は、鉢形の埦で引田式以降残る器形である。SI31の２の高坏は、坏部に段を有し脚は短かく太い。前期から引き続き残る器形である。甕は18点出土している。SI４の３・４、SI14の７、SI75の３・５は長胴甕である。SI4の４は、突き出した台状の底部を有し、非常に長い胴から直立気味の口縁部を経て、わずかに外反する口唇部にいたる。SI75の５は、胴部下半が膨れるタイプである。いずれも栗遺跡の大型甕Ⅱ類に分類されたものである。SI14の甕５・６、SI75の２・４は、小型の甕である。これらは、栗遺跡のⅡ期～Ⅲ期に比定されるもので、栗囲式期の中頃～後半のものである。SI30の３、SI31の４・５、SI63の５、SI68の２は球胴形の甕である。SI31の３は、鉢形の甕である。SI63の４は小型の壺、６は多孔の甑の底部である。また、本期から須恵器も一定量出土する。須恵器坏はSI17の３、SI30の２、SI39の２である。SI17の3は法量の小さい坏身で７世紀中頃のものである。SI30の２は、丸底状の坏でわずかに外傾して口唇部にいたる。SI39の２は、大降りの高台付坏である。いずれも７世紀後半代のものである。またSI17の４は蓋としたが、坏の可能性もある。SI60の１は壺の肩部であろう。SI63の７は甕である。

３期は、以上の土器組成で構成される。本期の特徴は、前期よりさらに同一器種の法量分化が進むこと、須恵器が一定量出土することである。

⑷　長町駅東遺跡４期（郡山遺跡Ⅱ期官衙）

新旧関係と出土土器から４期に属すると考えられる遺構は、SI１・26・27・32・33・37・38・43・44・45・47・48・53・56・57・58・62・64・65・74である。本期が当該遺跡の最盛期のように、全期を比較して検出された竪穴住居数も最多となる。本期の土師器の坏・埦類は82点を数える。

本期の土師器の坏の器形に見られる最も特徴的なことは、平底状の器形が多くなり、器形の多様化、法量分化がすすんでいることである。平底状の器形は、皿形（盤形）、箱形、見込みの深い埦形などに大別可能である。平底で皿形（盤形）の器形には、SI１の１、SI27の１、SI33の１、SI53の１、SI62の５、SI64の８・10・11、SI74の１・３などがある。これらと同器形である土師器ではなくロクロ土師器の坏であるSI32の４の底部切り離し技法は、回転糸切り後未調整であり、本期以降の特徴を示しており、後代の混入と考えられる。SI27の１、SI53の１、

SI62の５などは、口唇部が内湾もしくは直立する器形である。平底で箱形の器形にはSI33の２、SI62の１などがあり、盤形と箱形の中間の器形は、SI47の２、SI74の１などである。平底で見込みの深い埦形の器形は、SI33の４・５、SI44の10･12、SI45の１、SI48の５、SI64の14、SI65の１である。SI33の７、SI45の１、SI64の15などのように非常に大降りなものもある。いずれも黒色処理後、丁寧なヘラミガキ調整が施されているものがほとんどである。つぎにSI26の６、SI37の２、SI38の１、SI44の４・９･13、SI48の１、SI57の３は、前期で盛行し、本期に残る器形である。丸底の底部から緩やかに内湾し口唇部にいたる器形である。比較的に見込みが浅く皿状を呈すものもある。次に体部と底部の境目に段を持つ器形も前期から引き続き残る。SI１の２、SI26の２・３・４・５・７、SI33の３、SI37の３、SI43の１、SI44の１・２・３・５・７、SI48の２・３・４、SI57の２、SI62の２・４、SI64の３・６・９などであるが、SI１の２、SI37の１・３、SI48の４、SI57の２、SI62の２・４、SI64の６のように有段部が形骸化したものも観察され、前期から引き続き残るこの器形が退化しつつある表徴であろう。また、この器形には、SI26の４・７ 、SI37の１、SI43の１、SI44の６・８･11、SI48の２・３のように皿状もしくは盤状の、器高に比べ口径の大きなものも、一定量観察される。土師器の甕は、前期に引き続き長胴の甕と小型の甕、鉢形の甕があるが、球胴形の甕がほとんど見られなくなる。小型の甕は、SI26の９、SI48の６などであり、SI26の９は、縦位のハケメ調整の後、下半部のみ縦位のヘラケズリを施す。鉢形の甕は、SI１の３、SI４の23などである。これらは、器高は低いが口径の大きい口縁部が短く外反するタイプである。SI45の６・７は、比較的胴部が張ったやや古手の器形である。ただし、SI45の７は内外面が丁寧にナデ調整されるなど、本期より古い時期にはない調整が施されている。他に特筆すべきことは、長胴の甕のなかに、SI47の３、SI64の21のように、長い胴部に続く頸部が存在せず、「く」の字状に鋭く屈曲する口縁を有するタイプの甕がはじめて出現することである。SI47の３は、外部調整も前期までのように縦位の調整だけでなく、下半部の縦方向のヘラケズリを横位のヘラナデによりなで消している。鉢は、SI27の３のように平底の底部から外傾し、体部より直立気味の口唇部にいたる器形のもの、SI74の４のように内湾する口縁部を有するものなどが出土している。高坏は、SI43の２のように三方透かしの脚を有し、内面黒色処理後丁寧なヘラミガキを施しているものが出土している。またSI64の24は土師器の蓋である。内外面黒色処理され、非常に丁寧なヘラミガキが施されている。

須恵器は、量も多いが、本期から器種も多様になる。出土器種は、坏、高台付きの坏や埦、盤、蓋、長頸壺、短頸壺、瓶、甕である。須恵器の坏は、前期に出土した丸底状の小型のものであるSI32の２、SI44の21、SI62の10などのほかに平底の坏が多く出土している。SI32の３、SI33の13、SI37の５、SI45の８、SI56の１、SI64の26、SI65の２・３、SI74の５・６などである。SI56の１は、底部手持ちヘラケズリ整形、SI65の３はヘラ切りである。SI45の８、SI65の２は、回転ヘラケズリ整形が施され、切り離し技法は不明である。SI33の14、SI74の７は、平底だが法量が小さく、前期に属するものであろう。SI33の15･16やSI45の9･10、SI64の25などの高台付の坏や埦も前期から出現する器形と考えられる。とくに、SI64の25は、底部突出型の高台付坏と呼称され、静岡県の湖西窯で前期から本期にかけて多く焼成された特徴的な器種である。SI37の６は大型の盤である。SI38の４は、須恵器の摺り鉢である。SI45の12は長頸壺、SI62の12は短頸壺である。SI44の23は瓶である。SI45の11、SI57の８、SI64の28･29･30は、甕である。蓋は、SI44の24･25･26のようにカエリがあるものが残る他に、ボタン状つまみを有するSI48の７、SI47の４、SI62の11などが本期に特徴的な器形で、前期に定量出現するようになるカエリが退化して消失し、口唇部が垂下しようとしているものが共伴する。偽宝珠状のつまみを有するSI32の１は大型短頸壺、宝珠状のつまみを有するSI74の８は、脚付長頸壺の蓋であろう。

４期は、以上の土器組成で構成される。本期の特徴は、土師器の坏、須恵器の坏の器形が盤状になり、底部が平底になることで、法量も非常に大きくなる。前期にくらべ、器種も豊富になり、須恵器の出土量も格段に多くなることである。

(5) 長町駅東遺跡５期(郡山遺跡Ⅱ期官衙終焉以降)

新旧関係と出土土器から５期に属すると考えられる遺構は、SI51、SI52、SI55、SI61である。

土師器は、坏･埦12点、鉢３点、甕４点、壺１点である。土師器坏は、SI51の２、SI55の１が平底の盤状の坏である。SI55の１は、体部下端に回転ヘラケズリ調整が施される。前期から引き続き残る器形である。SI51の1･SI52の２は３期に盛行したもの、SI51の３は４期に盛行する口径の大きい平底へ移行する時期の皿状の器形である。SI61の１は、３期－４期に盛行する体部と底部の境目に段を持つ器形である。SI55の２、SI61の５・７は平底の埦であり、前期に出現した器形である。SI55の３の鉢は、内面黒色処理が施され、内外面ともにていねいなヘラミガキ調整が施される。SI61の３は、台状底部から内湾しつつ直立する口唇部にいたる。SI61の２は、丸底で内外面にていねいにヘラミガキを施す。土師器の甕はSI52の４、SI55の４が、外面叩き整形の甕である。短い口縁部が「く」の字状に外反する。SI52の４は叩き整形のあと横位のハケメ調整が施され、口唇部が受け口状に摘み上げられている。これらの器形と特に口唇部のこの特徴は、８世紀末に比定される伊治城跡出土の陸奥型の甕に見られる特徴である。SI51の４は大型の直口壺である。

須恵器の坏は、10点を掲載した。SI51の８、SI55の５・６・７・８・９･10などは、前期の盤状の坏にくらべ口径がやや小さく、８世紀中頃以降の器形を示す。また、底部調整も10は回転糸切り後外周回転ヘラケズリ整形で８世紀中頃以降多くなる底部整形技法である。その他SI55の11は、大型の鉢で、外面に赤彩が見られる。SI55の12は短頸壺である。これらも８世紀前半代以降に出現する器形である。

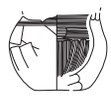
５期は、以上の土器組成で構成される。須恵器の坏の器形や法量によって時期的特徴が語られること、端的に言えば、土師器よりも須恵器の量がまさることが、まさに本期の特徴と言える。

１期竪穴住居跡・溝跡

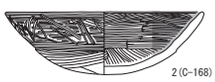
SI22出土遺物

1(C-054)

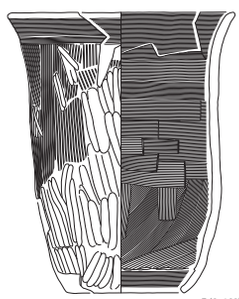
2(C-053)


3(C-052)

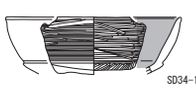
SI46出土遺物


2(C-168)

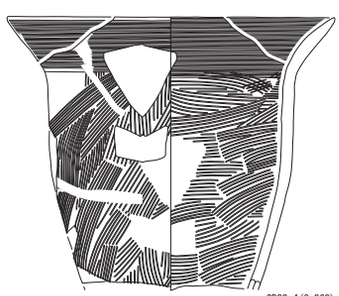
1(C-163)


7(C-169)

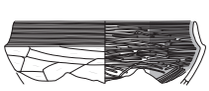
SD33・34出土遺物

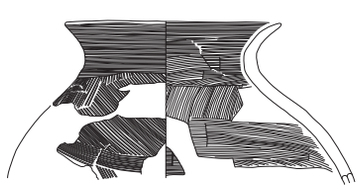

SD34-1(C-364)

SD33-1(C-362)

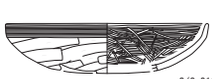

SD33-4(C-363)

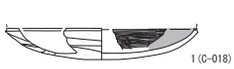
SI6出土遺物

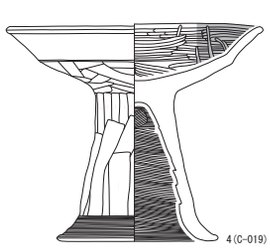

1(C-020)


3(C-021)

SI5出土遺物


2(C-016)


1(C-018)


4(C-019)

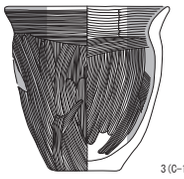
第346図　各期竪穴住居跡･溝跡出土遺物(1)

１期竪穴住居跡・溝跡

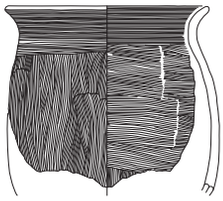
SI22出土遺物

4(C-055)

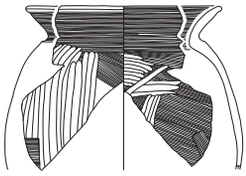
SI46出土遺物



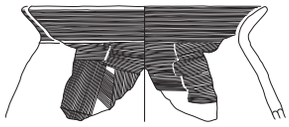
3(C-170)



5(C-166)



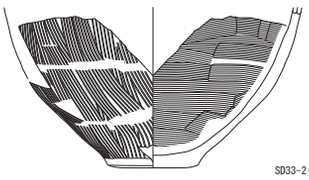
6(C-167)



4(C-164)

SD33・34出土遺物

SD33-3(C-361)



SD33-2(C-360)

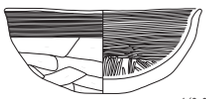
SI6出土遺物

SI5出土遺物

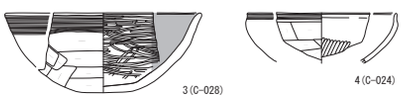
3(C-017)

２期竪穴住居跡

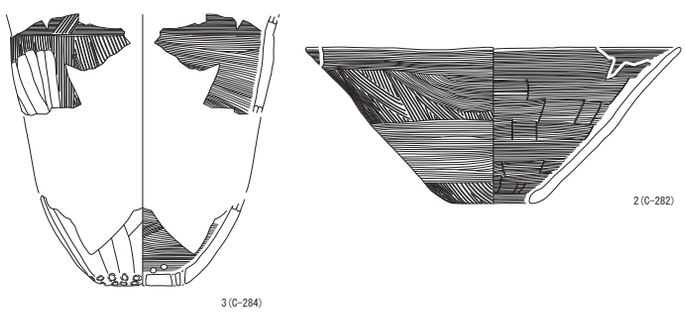
SI10出土遺物



SI12出土遺物



SI66出土遺物



SI72出土遺物

第347図　各期竪穴住居跡出土遺物(2)

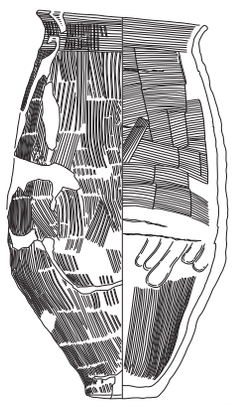
２期竪穴住居跡

SI10出土遺物

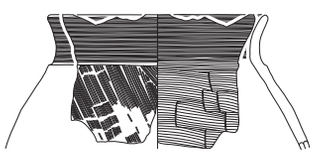
SI12出土遺物

5(C-026)

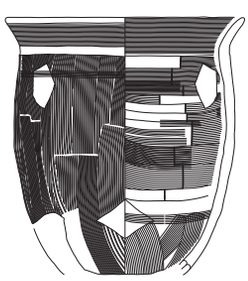
6(C-029)

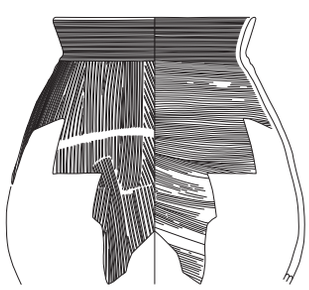

7(C-030)

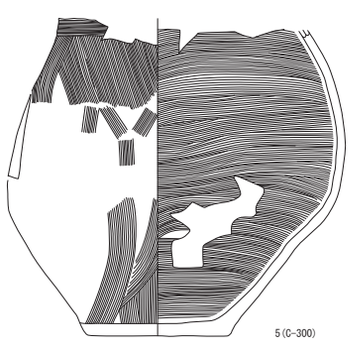
SI66出土遺物


1(C-283)

SI72出土遺物


3(C-296)


1(C-298)

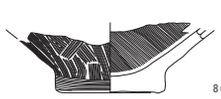

5(C-300)

6(C-301)

4(C-299)

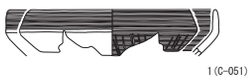
2(C-297)

7(C-303)


8(C-304)

２期竪穴住居跡

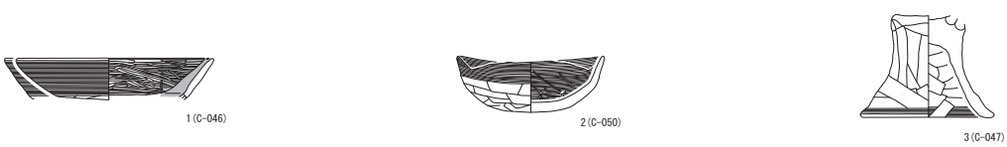
SI19出土遺物



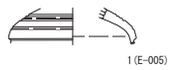
SI2出土遺物

SI13出土遺物

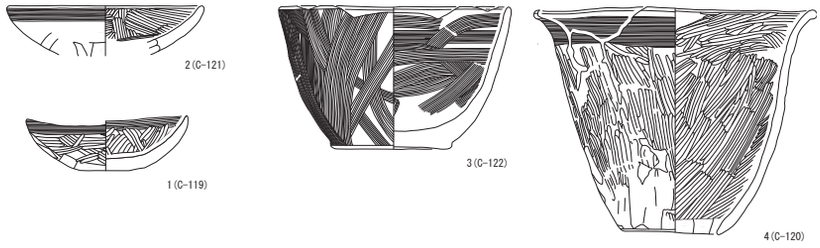
SI18出土遺物



SI28出土遺物



SI40出土遺物

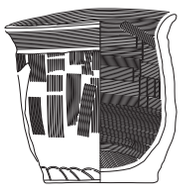


第348図　各期竪穴住居跡出土遺物(3)

２期竪穴住居跡

SI19出土遺物

SI2出土遺物



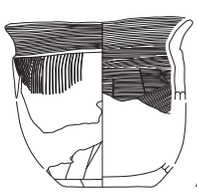
4(C-005)

3(C-007)

SI13出土遺物

1(C-032)

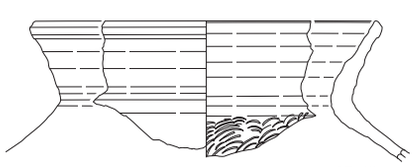
SI18出土遺物



4(C-049)

SI28出土遺物

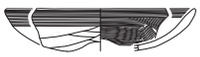
SI40出土遺物



5(E-022)

３期竪穴住居跡

SI4出土遺物

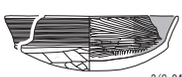


1(C-012)

SI7出土遺物

1(C-022)

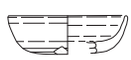
SI17出土遺物



2(C-045)

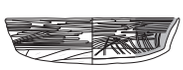
1(C-044)

4(E-003)



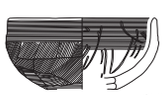
3(E-002)

SI14出土遺物



2(C-037)

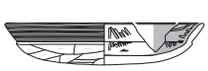
3(C-038)



4(C-039)

1(C-036)

SI30出土遺物



1(C-074)

2(E-006)

SI31出土遺物

1(C-078)

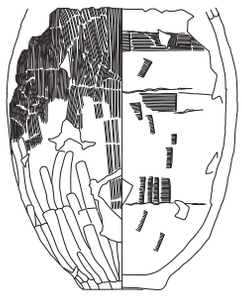
2(C-080)

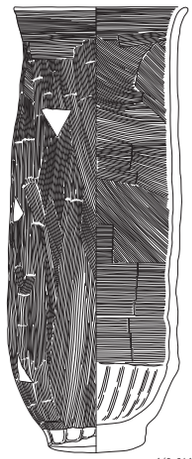
第349図　各期竪穴住居跡出土遺物(4)

３期竪穴住居跡

SI4出土遺物

2(C-010)

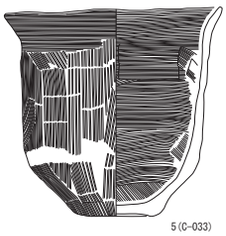

3(C-009)

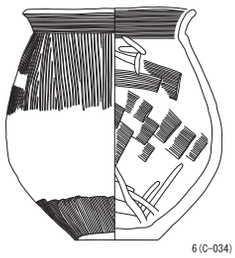

4(C-014)

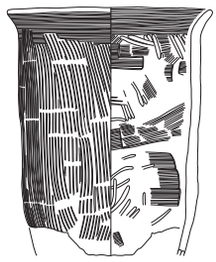
SI7出土遺物

SI17出土遺物

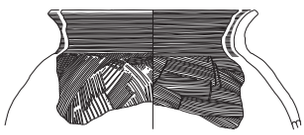
SI14出土遺物


5(C-033)

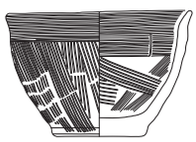

6(C-034)

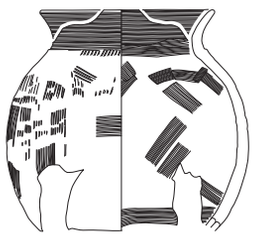

7(C-035)

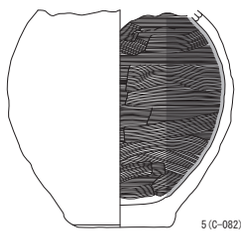
SI30出土遺物


3(C-075)

SI31出土遺物

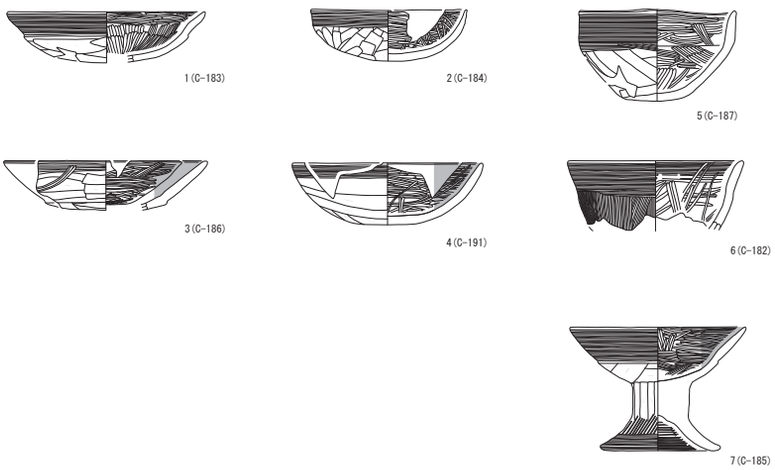

3(C-081)


4(C-079)


5(C-082)

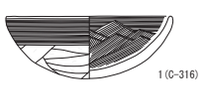
３期竪穴住居跡

SI49出土遺物

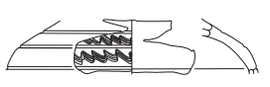


SI68出土遺物

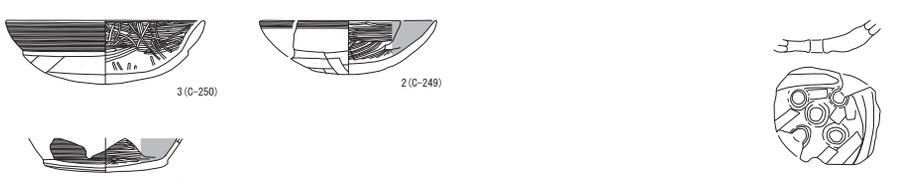
SI75出土遺物



SI60出土遺物



SI63出土遺物

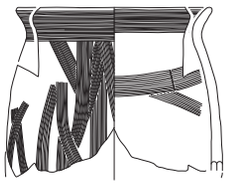


SI39出土遺物

第350図　各期竪穴住居跡出土遺物(5)

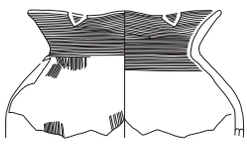
３期竪穴住居跡

SI49出土遺物

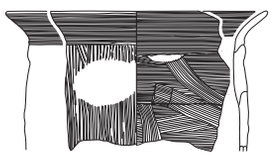


8(C-190)

SI68出土遺物



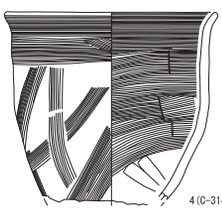
2(C-292)



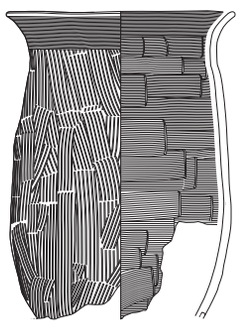
3(C-289)

SI75出土遺物

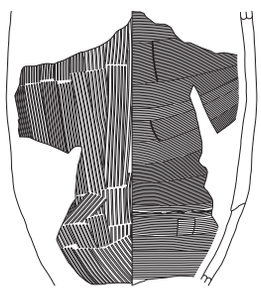
2(C-313)



4(C-314)



5(C-315)

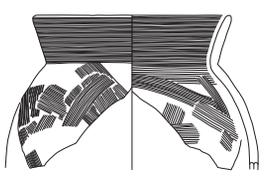


3(C-311)

SI60出土遺物

SI63出土遺物

4(C-253)



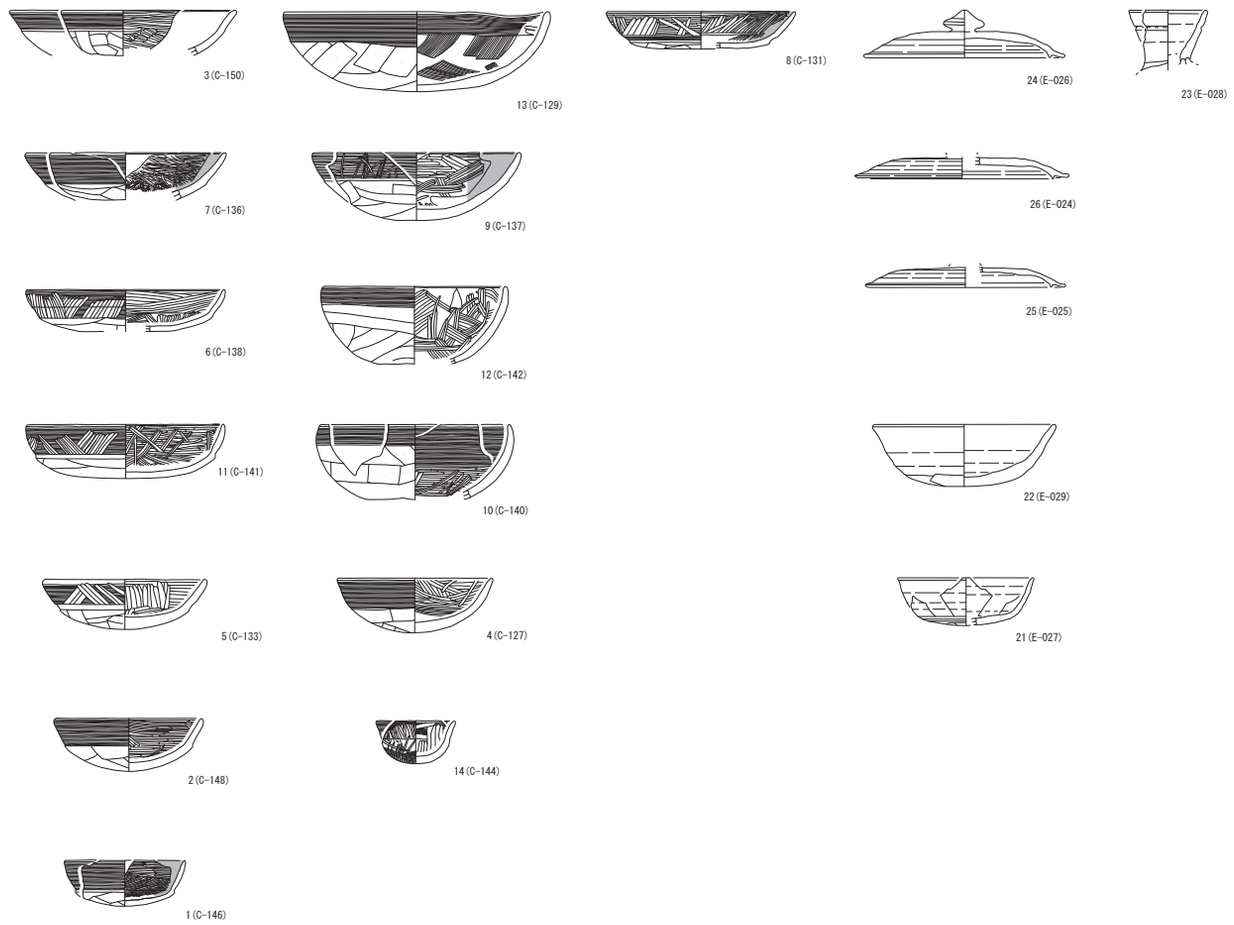
5(C-251)

7(E-059)

SI39出土遺物

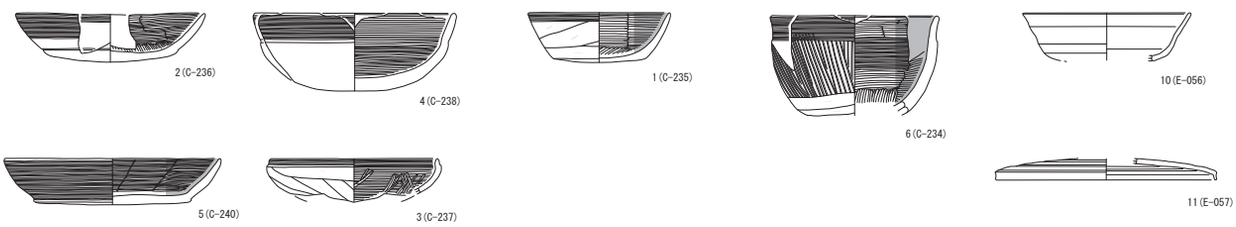
４期竪穴住居跡

SI44出土遺物



SI58出土遺物

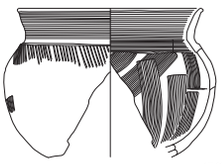
SI62出土遺物



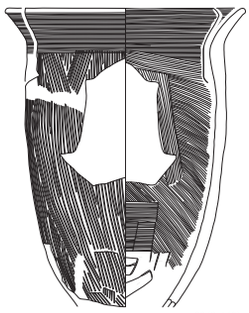
第351図　各期竪穴住居跡出土遺物(6)

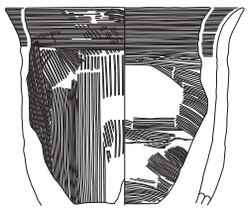
４期竪穴住居跡

SI44出土遺物

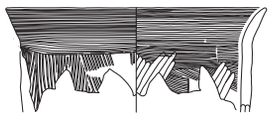

17(C-130)

15(C-135)

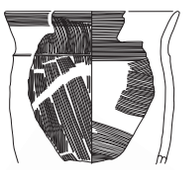

20(C-149)


16(C-128)

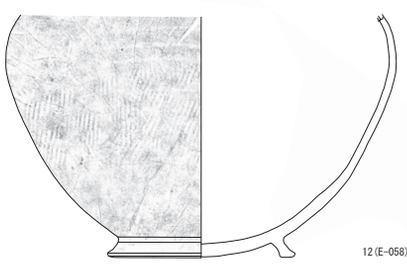
18(C-132)

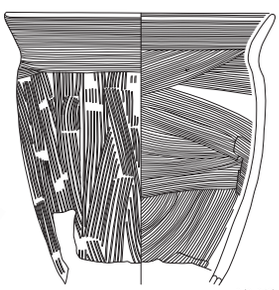

19(C-143)

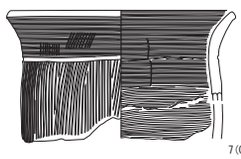
SI58出土遺物

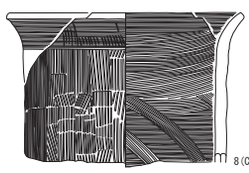

3(C-217)

SI62出土遺物


12(E-058)


9(C-243)


7(C-239)


8(C-244)

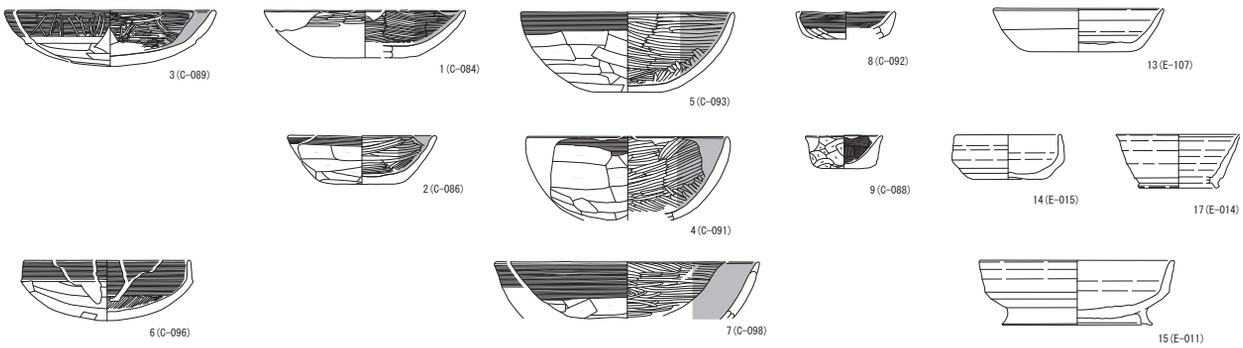
４期竪穴住居跡

SI1出土遺物

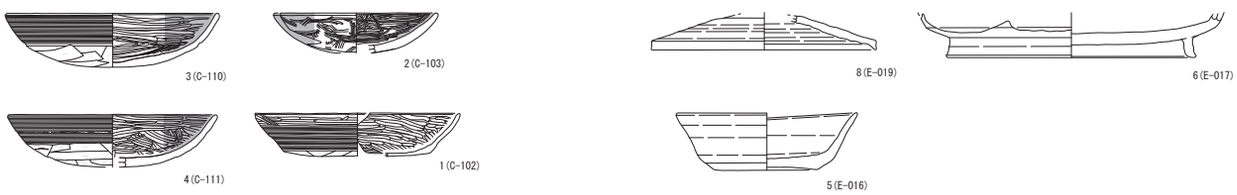
SI27出土遺物

SI32出土遺物

SI33出土遺物



SI37出土遺物



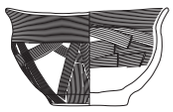
SI38出土遺物

SI43出土遺物

第352図　各期竪穴住居跡出土遺物(7)

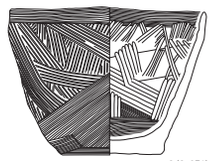
４期竪穴住居跡

SI1出土遺物



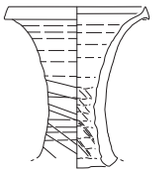
3(C-003)

SI27出土遺物



3(C-071)

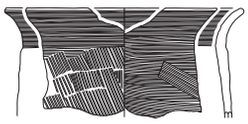
SI32出土遺物



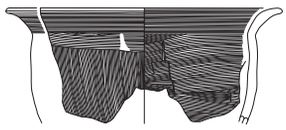
5(E-007)

SI33出土遺物

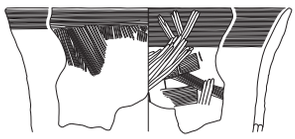
17(E-013)



10(C-094)

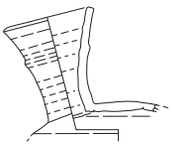


11(C-097)



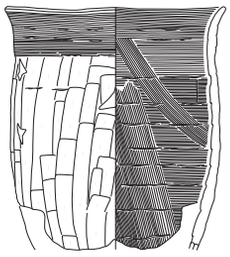
12(C-099)

SI37出土遺物

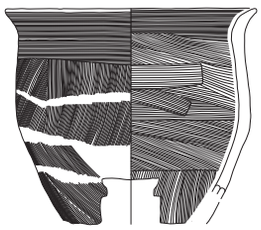


7(E-018)

SI38出土遺物



3(C-117)



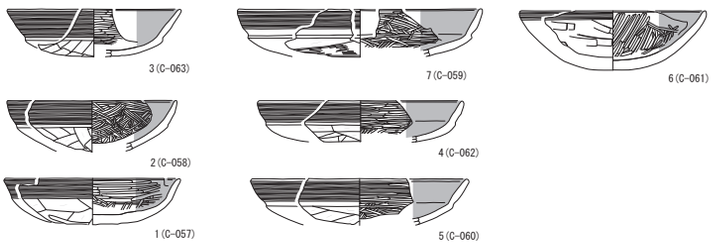
2(C-116)

SI43出土遺物

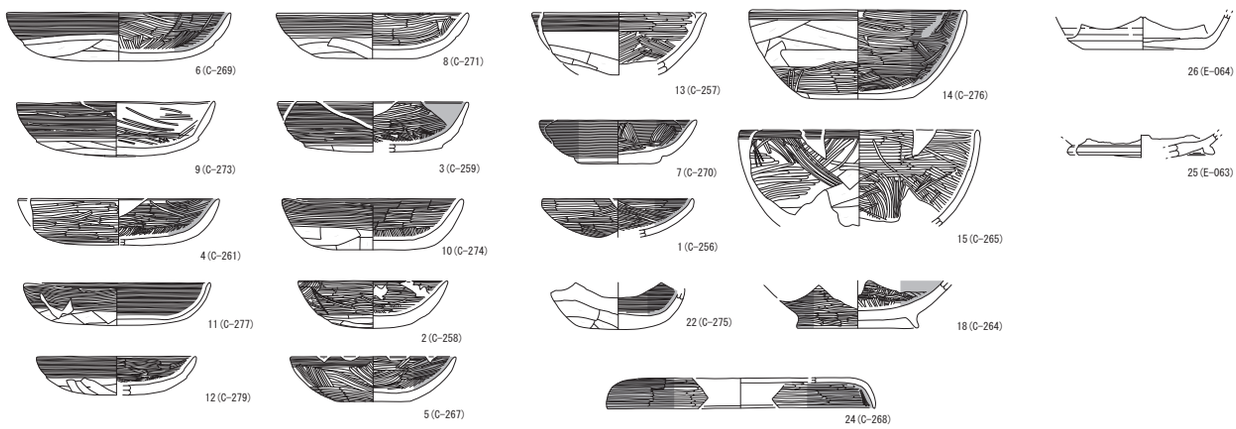
3(E-023)

４期竪穴住居跡

SI26出土遺物

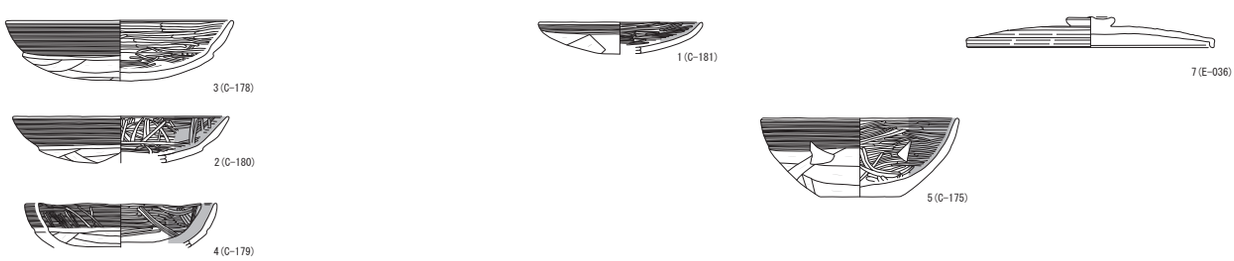


SI64出土遺物



SI47出土遺物

SI48出土遺物

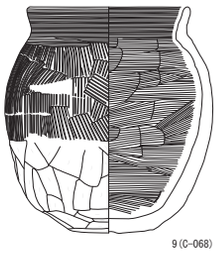


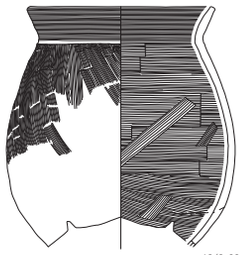
SI53出土遺物

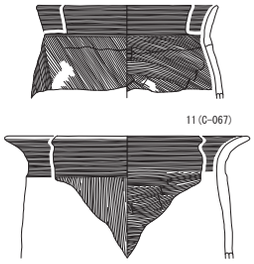
第353図　各期竪穴住居跡出土遺物(8)

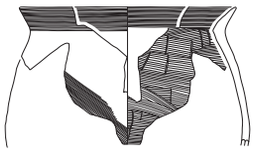
４期竪穴住居跡

SI26出土遺物

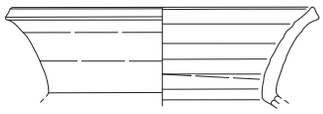

9(C-068)

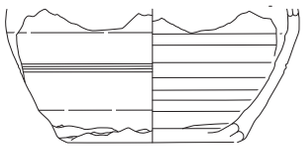

12(C-069)


11(C-067)
8(C-066)

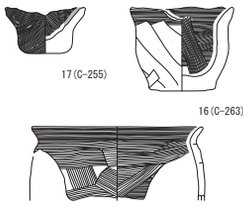

10(C-056)

SI64出土遺物

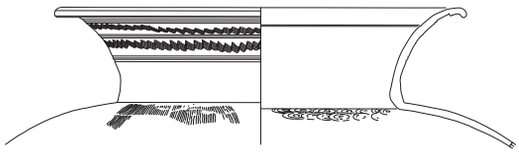

28(E-062)

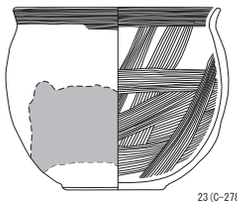

29(E-061)

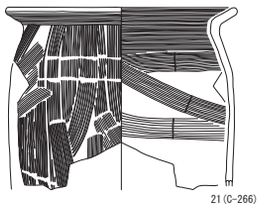
27(E-065)


17(C-255)
16(C-263)
20(C-260)

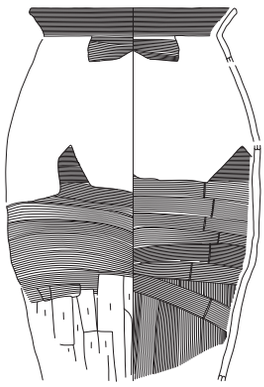
19(C-262)


30(E-060)

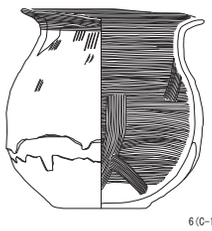

23(C-278)


21(C-266)

SI47出土遺物


3(C-172)

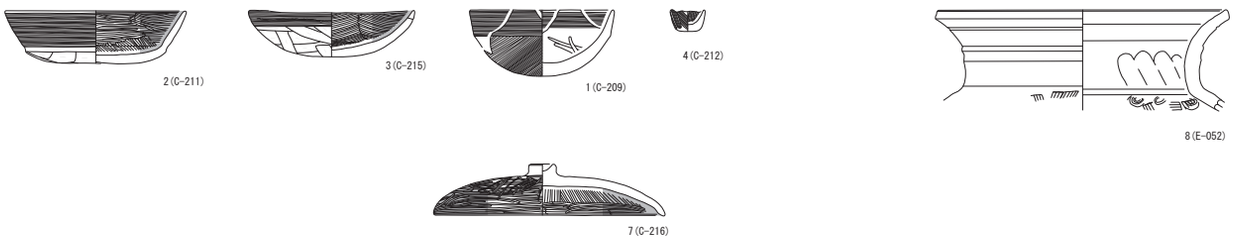
SI48出土遺物


6(C-177)

SI53出土遺物

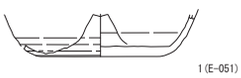
４期竪穴住居跡

SI57出土遺物

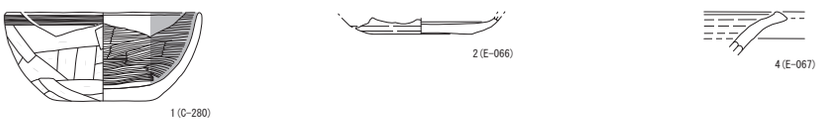


SI74出土遺物

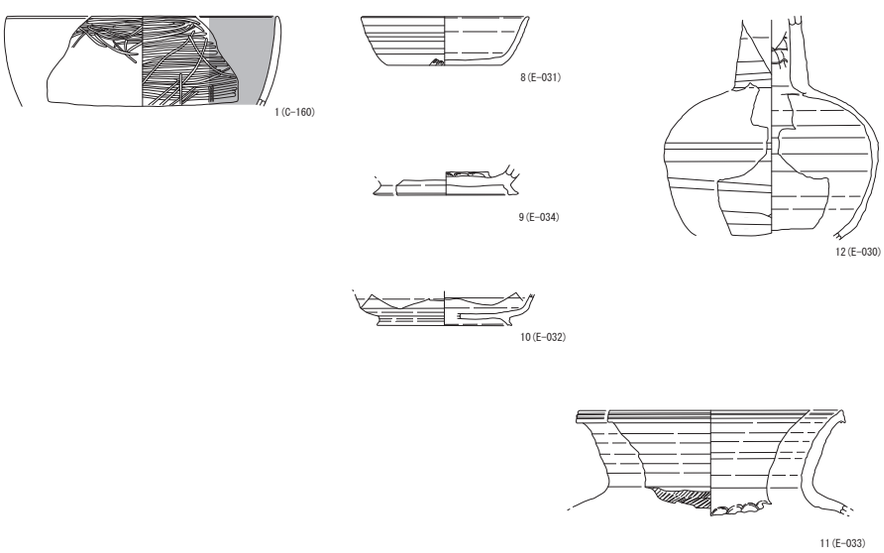
SI56出土遺物



SI65出土遺物



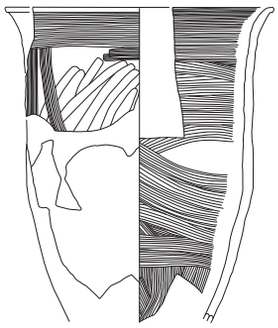
SI45出土遺物



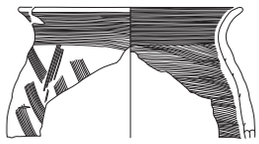
第354図　各期竪穴住居跡出土遺物(9)

４期竪穴住居跡

SI57出土遺物

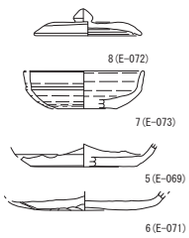


5(C-213)



6(C-214)

SI74出土遺物

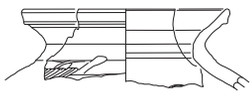


8(E-072)

7(E-073)

5(E-069)

6(E-071)

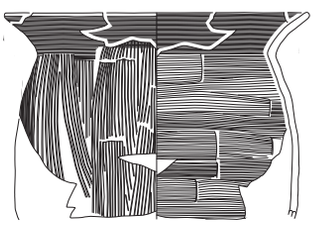


9(E-070)

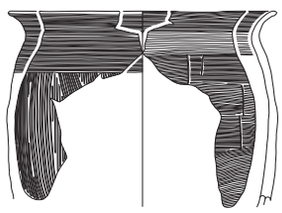
SI56出土遺物

SI65出土遺物

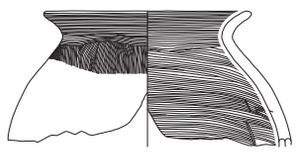
SI45出土遺物



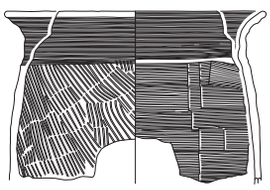
3(C-159)



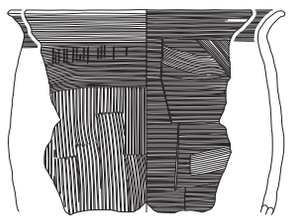
2(C-152)



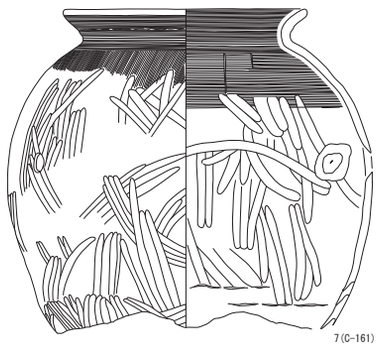
6(C-156)



4(C-154)



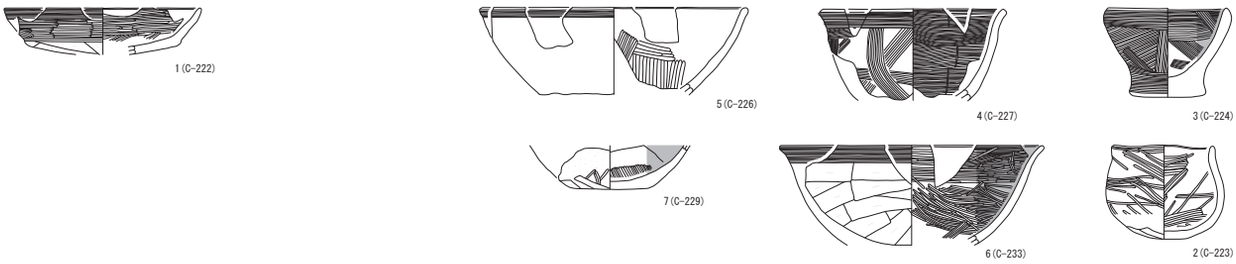
5(C-155)



7(C-161)

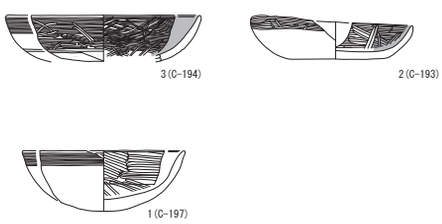
５期竪穴住居跡

SI61出土遺物

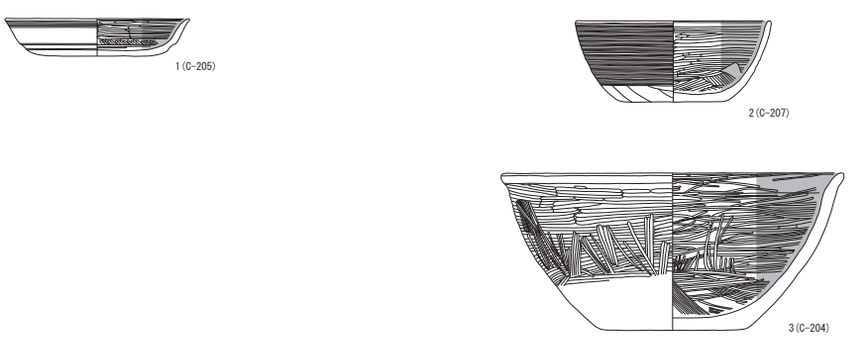


SI52出土遺物

SI51出土遺物



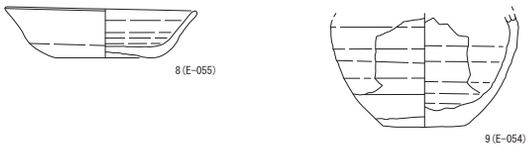
SI55出土遺物



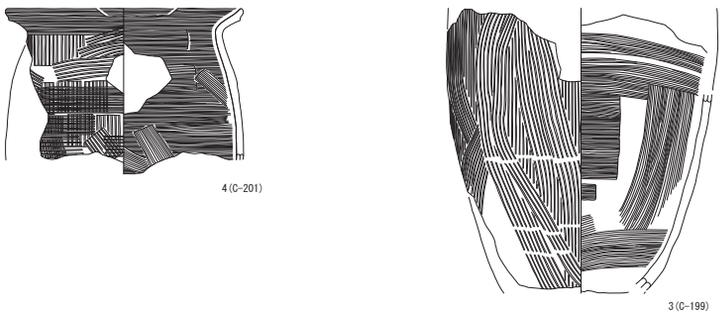
第355図　各期竪穴住居跡出土遺物(10)

５期竪穴住居跡

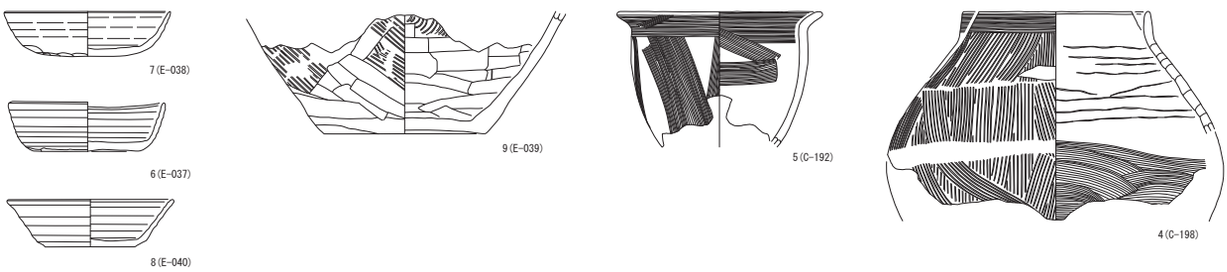
SI61出土遺物



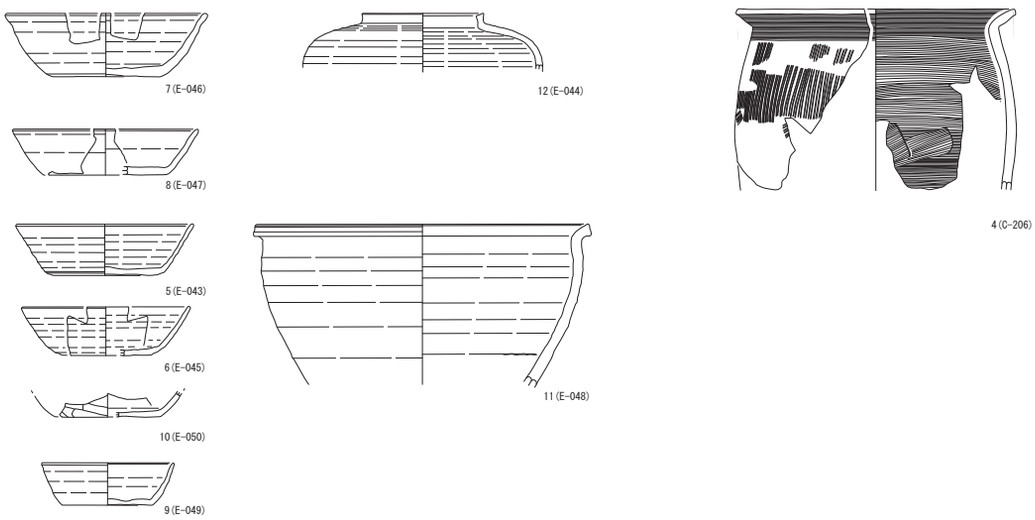
SI52出土遺物



SI51出土遺物



SI55出土遺物



引用・参考文献

工藤信一郎他　『長町駅東遺跡第４次調査　仙台市あすと長町土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅰ』仙台市文化財報告書　第315集　2007

長島榮一　『郡山遺跡発掘調査報告書　総括編』仙台市文化財調査報告書　第283集　2005

主浜光朗　『元袋遺跡　都市計画道路「川内・柳生線」関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ』仙台市文化財調査報告書　第272集　2004

工藤哲司　『鴻ノ巣遺跡　第７次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書　第280集　2004

佐藤　淳　『郡山遺跡　第124次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書　第251集　2001

荒井　格・赤澤靖章　『高田Ｂ遺跡』仙台市文化財調査報告書　第242集　2000

工藤信一郎他　『南小泉遺跡　第30・31次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書　第226集　1998

佐藤　淳・主浜光朗　『相ノ原・大貝中・川添東遺跡　国道286号線(赤石工区)改良工事関係発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書　第217集　1997

工藤哲司・赤澤靖章他　『中在家南遺跡他　仙台市荒井土地区画整理事業関係遺跡調査報告書』仙台市文化財調査報告書　第213集　1996

長島榮一・稲葉俊一　「〔１〕長町貨物ヤード跡地」『仙台平野の遺跡群Ⅻ－平成４年度発掘調査報告書』　仙台市文化財調査報告書 第170集　1993

長島榮一・稲葉俊一　「〔３〕長町貨物ヤード跡地」『仙台平野の遺跡群Ⅺ－平成３年度発掘調査報告書』　仙台市文化財調査報告書 第162集　1992

工藤哲司・成瀬　茂　『栗遺跡　栗囲式土師器標識遺跡調査報告』仙台市文化財調査報告書　第43集　1982

古代城柵官衙遺跡検討会　『第34回　古代城柵官衙遺跡検討会資料集』　2008

佐藤敏幸・大久保弥生　「宮城県の湖西産須恵器」『宮城考古学』第９号　2007

東北古代土器研究会福島・宮城支部　『東北古代土器集成－古墳後期～奈良・集落編－〈宮城〉』　2006

中村　浩・望月幹夫編　「土師器と須恵器」『普及版・季刊考古学』　雄山閣　2001

古代の土器研究会　『古代の土器１　都城の土器集成』　1992

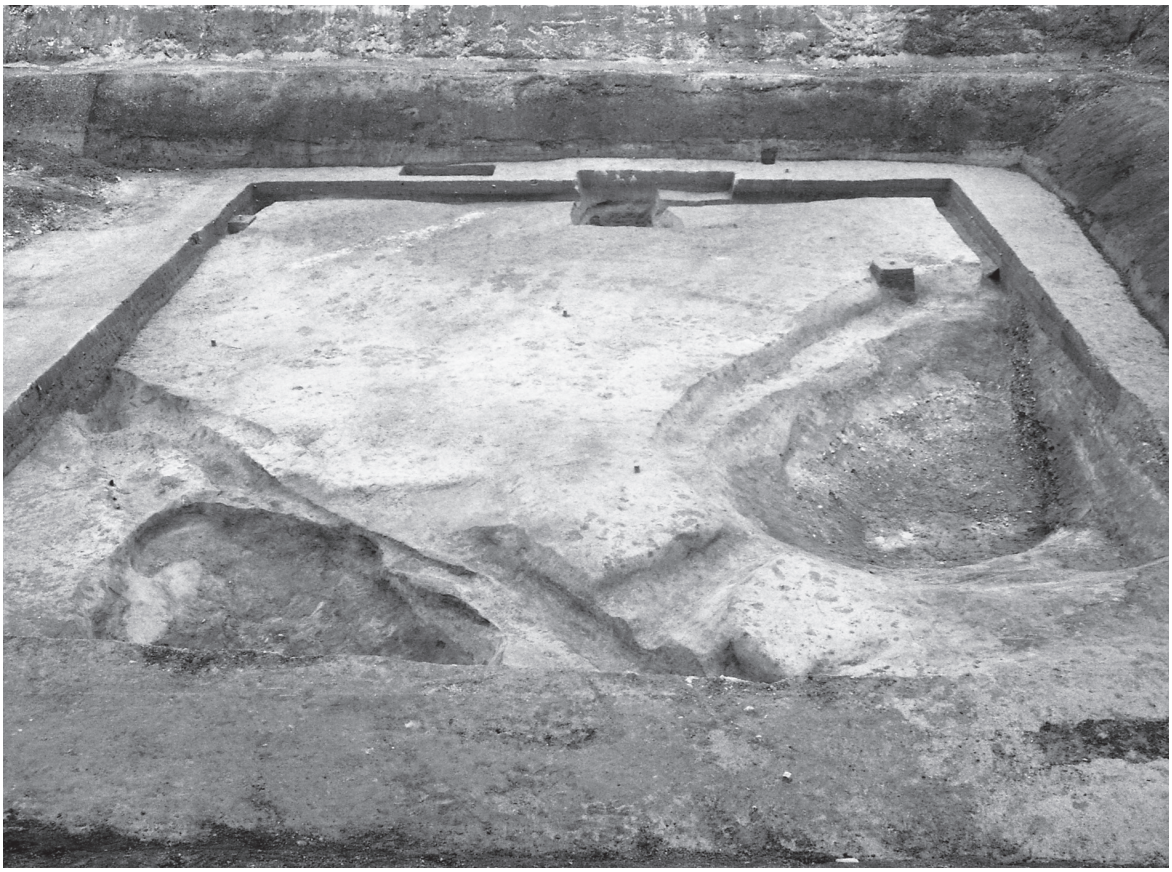
東国土器研究会　『東国土器研究　第２号　特集　黒色土器－出現と背景』　1989

『東国土器研究　第３号　特集　黒色土器－展開と終焉』　1990

『東国土器研究　第４号　特集　東国における律令制成立までの土器様相とその歴史的動向』1995

静岡県教育委員会　『静岡県の窯業遺跡(静岡県内窯業遺跡分布調査報告書)』　静岡県文化財調査報告書　第42集　1989

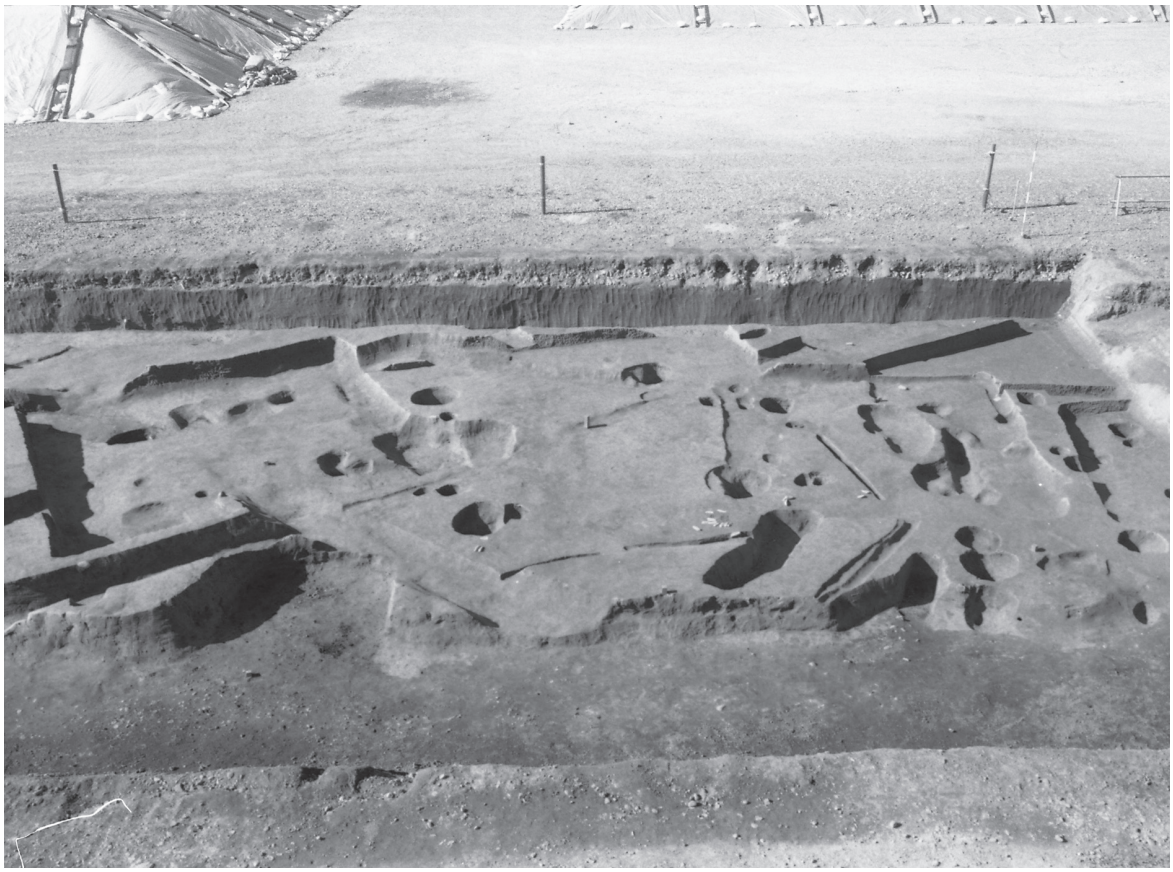
写　真　図　版



2A区全景

2B区SD全景

写真図版　1



２B区北部全景

２B区中央部全景

写真図版　２

２B区南部全景

２B区調査風景

写真図版　３

３A区北部全景

３A区全景

写真図版　4

2A全景

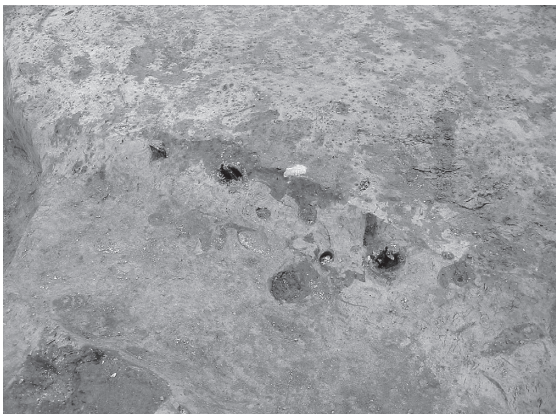
SD2・3・4断面

SD1全景

SD2全景

SD2断面

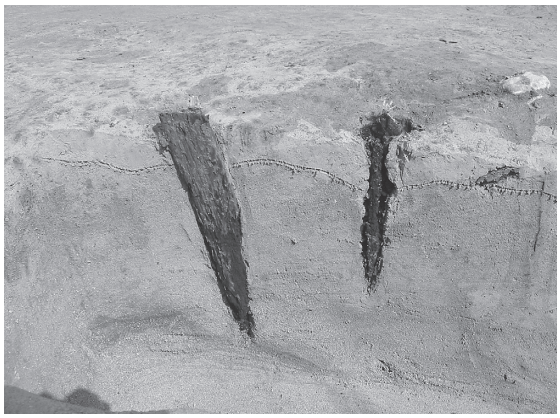
SD4・5断面



SD5杭列(1)

SD5杭列(2)

写真図版　5


SD5杭列(3)

SD5杭列(4)

SX1全景

SX1断面

SX2遺物出土状況

SX2全景

SX2断面

SX3全景

写真図版　6